

日本消防



- 第22回全国女性消防操法大会運営委員会を開催
- ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介

□ 絵 平成27年春の叙勲伝達式(消防関係) H27.5.14(木) 於 ニッショーホール
 平成27年春の褒章伝達式(消防関係) H27.5.15(金) 於 スクワール麹町
 ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」好評放送中

巻頭言 「新法的確な運用に向けて」	……………	(公財)石川県消防協会	会長	澤飯 英樹	… 1
日消の動き 福祉・年金・火災	……………	(公財)日本消防協会	会長	秋本 敏文	… 3
第22回全国女性消防操法大会運営委員会を開催	……………	(公財)日本消防協会			… 4
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介	……………	(公財)日本消防協会			… 6
消防出初式と地域防災力アンケート結果について	……………	(公財)日本消防協会			… 9
特別表彰「まとい」を受賞して 「安心して暮らせるまちづくりをめざして」	……………	兵庫県福崎町消防団	団長	瀧川 格威	…13
特別表彰「まとい」を受賞して 「自分たちのふるさとを自分たちで守る地域リーダーを目指して」	……………	鳥取県米子市消防団	団長	唐来 明夫	…15
東西南北(新潟県)「上杉謙信公の「義」の精神を胸に郷土を守る」	…	上越市消防団	団長	大島 正春	…17
東西南北(滋賀県)「市民の期待に応えるために」	……………	近江八幡市消防団	団長	松本 春男	…19
東西南北(山口県)「未来につなげる 活力のある消防団を目指して」	……………	周南市消防団	団長	畠中 巧	…21
シンフォニー(熊本県)「女性消防団員として」	……………	南阿蘇村消防団	女性分団長	峰 江梨子	…23
平成27年春の叙勲伝達式・褒章伝達式	……………	総務省消防庁			…25
消防育英会理事会を開催	……………	(公財)消防育英会			…41
第29回中国消防視察について	……………	(公財)日本消防協会			…42
うちの名物団員	……………				… 45
消防団員の広場(沖縄県)「消防団活動の充実とこれからの共同による地域防災を目指して」	……………	東部消防団	副団長	吉野 了	…46

編集後記

表紙写真説明

「謙信公祭」平成27年8月22日(土)～8月23日(日)

戦国の名将・上杉謙信公の武勇と遺徳を偲び、大正15年から開催されている祭りです。

鎧兜に身を固めた武将たちによる「出陣行列」や、「川中島合戦の再現」など、戦国絵巻さながらの迫力と臨場感で見る人を魅了します。平成27年度は8月22日(土)と23日(日)の2日間開催します。

(新潟県上越市)

平成27年春の叙勲伝達式(消防関係)

平成27年5月14日(木) 於 ニッショーホール



平成27年春の褒章伝達式(消防関係)

平成27年5月15日(金) 於 スクワール麴町



ラジオ番組
「おはよう！ニッポン全国消防団」
好評放送中！

(公財)日本消防協会



平成 27 年
2 月放送分に出演の
榊原郁恵さん

平成 27 年
3 月放送分に出演の
サンドウィッチマンさん



平成 27 年
4 月放送分に出演の
麻木久仁子さん



「新法の的確な運用に向けて」

(公財)石川県消防協会 会長 澤飯 英樹



石川県は、北陸地方の中部に位置し、南は白山国立公園を源に発する手取川を中心とする加賀平野、北は日本海に突き出た能登半島からなっています。県都金沢は犀川、浅野川が流れる日本でも有数の城下町で歴史の面影を残しています。

当協会は、昭和22年12月に設立し、昭和61年10月に財団法人となり、平成25年4月から公益財団法人として活動しています。私は12代目の会長に就任して3年目となり、平成26年度からは日本消防協会の副会長を務めています。

本県の消防団の現況は、19市町23消防団251分団からなり、総人口約1,155千人に対して、団員数は女性団員約130名を含めた約5,300名で、充足率は93%となっています。藩政時代の加賀鳶の伝統を汲んだ結束力の強い少数精鋭の組織であります。

消防団員の年齢構成は、全国の状況と同じく高齢化が進み、定数確保に機能別団員や勤務地団員を設置し門戸を広げる等の対策を講じてはいますが、世代交代がうまく機能しない状況であります。

過疎化が進む本県に、待望の北陸新幹線が3月に長野・金沢間が開業となり、東京・金沢間が1時間20分程度短縮されて2時間28分で結ばれ、また利便性の向上等に伴い、関東圏からの交流人口の増大と経済効果の拡大が見込まれており、おもてなしの向上や開業効果が県内全域に波及

するよう道路等の交流基盤の整備が行われています。

東京との時間距離が大阪よりも短くなり、県民の目は関西圏から関東圏へとシフトする傾向とともに、金沢・加賀・能登は勿論のこと、沿線の長野県、新潟県、富山県に加え工事区間の福井県とも相乗効果を図りながら広域的なぎわいの創出に期待をかけています。

長野・金沢間はトンネルの多い区間ではありますが、日本海と立山の壮大なパノラマが左右に見られる区間でもあります。まずは国内屈指の城下町金沢の武家文化や能登の素朴な自然と調和した伝統文化にふれていただき、さらに足を伸ばして、加賀温泉郷のいで湯を満喫していただくことをおすすめします。

平成25年11月に開催された消防団120年・自治体消防65周年記念大会に本県からは368名が参加しました。消防団が消防を支えてきたことを振り返りながら、消防団の団結を強め、これからも常備消防との連携のもと、一層の充実発展を期した意義深い大会であったと思います。

同大会での消防伝統演技では、金沢市消防団連合会から纏振り二十本、はしご乗り四本を出演させていただき、加賀鳶の息のあった整然とした演技を全国の皆様に披露することができました。仙台市や江戸消防記念会との合同演技のなか、それぞれの伝統に培われた持ち味を活かした演出は、記念大会に相応しいすばらしい内

容であったと自画自賛しています。

東日本大震災から早四年が経過し、昨年も土砂災害や噴火災害、また爆弾低気圧による雪害等、想定を超える災害が各地で発生しています。本県においても、平成19年に能登半島地震、その翌年の平成20年に浅野川流域豪雨災害が発生し、災害への備えの大切さを痛感したところがあります。これらの災害においても危険と困難が隣り合わせの必死の消防活動が行われたことや災害から学んだ教訓は、決して風化させてはならない、子孫に確実に引き継がなければならない貴重な財産であります。

近年の災害の激甚・広域化により、災害防ぎょ活動は困難な状況下での活動となっており、なお一層の地域間協力の強化が求められています。このような現状を踏まえつつ、北陸3県(石川県・富山県・福井県)の防災関係機関の連携が更に深まるよう、平成26年5月に北陸3県の消防協会会長をはじめ、消防長会長、危機管理行政の重責を担う方々との情報交換の場を持つことができました。理屈だけではなく顔の見える関係を築くことが大規模災害時の迅速・的確な対応に繋がるものと考えています。

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の公布・施行を受けて、平成26年2月に改正された消防団員服制基準に盛り込まれた、機能性やデザイン性の向上とともに団員の士気向上に資する観点から形式が変更された活動服について、私が所属する金沢市消防団への速やかな導入に向けて、平成26年度補正予算に計上するよう関係機関に働きかけたところ、本年の金沢市消防出初め式において、秋本日本消防協会長をお迎えし、一新した活動服のお披露目を行うことができました。地域防災力の充実強化の道筋をつけたと思っています。

新法の的確な運用に向けて、昨年、官民一体

となった全国規模の大会が開催されました。また消防団員の確保や消防団の装備の改善に向けた具体的な取組事項も示されました。今後の課題として、まず消防団を中核とした地域防災力の充実強化の具体的方策として、近年、災害が数多く発生し、特に大規模災害時には、多くの人手が必要となるなかで、必要性が高い装備の現状、報酬等の支給方法や支給額、さらに、女性消防団員の団員数や活動内容等について、地域に根ざした課題を整理し、客観的な意見を参考に対応すべきと考えています。

また、消防団員の確保対策については、消防団員の必要性が高まる一方で、団員数は年々減少の傾向にあります。地域防災の要である消防団員の確保が、消防団活動の大前提にあることから、確保対策について喫緊の課題として、団員確保のために行っている取り組みや工夫の整理、消防団員を雇用する事業所の優遇措置や勤務地団員導入の弊害等について、詳細な取りまとめが道しるべになると考えています。

大きな災害がいつどこで発生してもおかしくない昨今、我々消防職団員一人ひとりが気を引き締めて、改めて使命を再確認するとともに、最善の総力が結集できる消防体制を築き、維持しなければなりません。また、「自らの地域は自ら守る」という熱い思いとともに、地域住民の安全・安心のために日頃の精進を怠ってはならない強い思いであります。

結びに、日本消防協会及び各都道府県消防協会の益々のご発展と、全国の消防職団員の皆様のご健勝とご多幸、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

福祉・年金・火災

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

日消では、消防団員の皆さんの眼に触れやすい表彰式、慰霊祭、操法大会、女性消防団員活性化大会などのほか、福祉共済、個人年金、火災共済という、地味かもしれませんが、消防団員の皆さんの生活に関わりが深い大事な事業をしています。いずれも、30年、40年というような長い歴史をもっているのですが、特に年金や火災共済は加入者が減少の傾向にありますので、関係者一同、加入拡大に向けて、がんばっています。

年金は、国の年金制度が基本ですが、年金生活に入った時、公的年金にプラスするものがある、日常生活に少しのゆとりができ、あるいは孫をちょっと喜ばせてあげるようなことができたらいいだろうと思います。例えば消防個人年金では、毎月1万円の掛金で20年間加入した場合、10年間毎月23,000円の年金を受け取ることができます。掛金の増減によって年金額も増減しますが、いずれにしても、年金生活年齢になった時、この年金は貴重なお金になるでしょう。

火災共済は、万が一火災で全損状態になった時、25口2,500円掛金で加入していれば、375万円の共済金が支払われます。風水雪害の時も、共済金の額は異なりますが、加入していれば共済金の支払いがあります。この支払倍率は、以前は1,000倍だったのですが、厚生労働省との数年の折衝を経て、今は1,500倍へと、5割増にしています。

福祉共済には多数の団員の皆さんに加入して頂いていますので、ご説明は不要でしょうが例えば万が一の殉職の時、傷病の時など貴重な助けになると思います。東日本大震災で多数の方が殉職された時は、給付金を大幅に減額したり、掛金を臨時に増額せざるを得ないという大変つらい、申し訳ない事態になりましたが、今は元通りになっています。

こうした共済制度は、消防団員の皆さんの生活に直結する、日消としての大事な事業だと思っています。加入者の減少が逆に増加に転じるように、ここではひとつひとつ申しあげることができませんが、制度の内容を改善したり、全国各地で、年間およそ30回の説明会を開催したりといろいろ努力しています。消防職員の皆さんも含めて、できるだけ多くの皆さんに知って頂き、加入して頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

第22回全国女性消防操法大会 運営委員会を開催

(公財)日本消防協会

平成27年4月17日(金)日本消防会館において、第22回全国女性消防操法大会運営委員会が開催され、大会の「基本方針」について協議した結果、次のとおり決定されました。

第22回全国女性消防操法大会基本方針

1 目的

女性の消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的とする。

2 日時

平成27年10月15日(木)午前9時30分から【雨天決行】

3 会場

横浜市消防訓練センター
神奈川県横浜市戸塚区深谷町777番地

4 大会運営委員等

別表のとおり

5 出場隊

- (1) 都道府県消防協会が推薦する女性の消防隊(消防団員を含む)とする。
- (2) 1隊7名とする。

6 消防操法

- (1) 軽可搬ポンプ操法とする。
- (2) 5人操法とする。
- (3) 手びろめによる二重巻ホース1線延長(ホース3本)とする。
- (4) 標的を使用し放水を行う。
- (5) 収納は省略する。

7 使用機械器具

D-I級軽可搬ポンプ一式

8 審査

- (1) 審査員は、日本消防協会において指定する。
- (2) 審査基準は、日本消防協会において定める。
- (3) 審査内容については、非公開とする。
- (4) 審査に対する苦情等は、一切受理しないこととする。
- (5) 大会日あるいは大会途中において、降雨等があっても審査には考慮しないものとする。
- (6) 各隊の操法タイム及び総得点を公表する。

9 表彰

- (1) 12位までを表彰する。
- (2) 優勝 1隊 (内閣総理大臣賞・日本消防協会会長賞)
- (3) 準優勝 2隊 (消防庁長官賞・日本消防協会会長賞)
- (4) 優秀賞 3隊 (日本消防協会会長賞)
- (5) 優良賞 6隊 (日本消防協会会長賞)
- (6) 優秀選手賞 10名 (日本消防協会会長賞)

10 その他

その他必要な事項は、大会運営委員会で定め別途通知する。

大会運営委員の皆様は次のとおりです。

第22回全国女性消防操法大会運営委員名簿

平成27年4月1日現在

大会運営委員長	生嶋 文昭	日本消防協会常務理事
大会運営副委員長	山崎 一樹	総務省消防庁消防大学学校長
〃	武居 丈二	日本消防協会常務理事
運営委員	山口 英樹	総務省消防庁総務課長
〃	河合 宏一	総務省消防庁地域防災室長
〃	小野 修	総務省消防庁消防大学学校副校長
〃	久保田真人	横浜市消防局消防局長
〃	安田 正命	神奈川県消防協会会長
〃	吉岡 伸子	岡山県婦人防火クラブ連絡協議会会長
〃	山崎たみ子	兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会会長
〃	後藤 重子	宮城県婦人防火クラブ連絡協議会会長

【会議風景】



第22回全国女性消防操法大会 出場順

出場順	第1コース（本部席側）	第2コース（応援席側）
1	愛知県	沖縄県
2	神奈川県	高知県
3	石川県	長崎県
4	秋田県	佐賀県
5	茨城県	鳥取県
6	鳥根県	広島県
7	群馬県	京都府
8	和歌山県	新潟県
9	三重県	長野県
10	山口県	滋賀県
11	東京都	青森県
12	愛媛県	岡山県
13	奈良県	富山県
14	大阪府	福岡県
15	埼玉県	北海道
16	福島県	鹿児島県
17	熊本県	岩手県
18	宮崎県	岐阜県
19	静岡県	山形県
20	山梨県	宮城県
21	兵庫県	福井県
22	香川県	徳島県
23	千葉県	大分県
24	栃木県	

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、芸能界、スポーツ界等の著名な方々により結成された「消防応援団」のご協力を得て、全国各地で頑張っている消防団員にエールを送るとともに、一般の方々にも消防団活動等について理解を深めてもらうため、消防団に関するラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」を放送しています。

今回は、平成27年2月から平成27年4月までに放送した出演者を紹介します。



平成27年2月放送分に
出演の消防応援団
榊原郁恵さん

2月7日又は2月8日放送

2月14日又は2月15日放送



神奈川県川崎市臨港消防団
副団長 山下 仁さん

臨港消防団を紹介するチャンスを戴き、誠に有難うございました。『消防団のプロ』と呼ばれるために、一致団結「速足 進め!」



富山県富山市消防団
分団長 吉岡 佳津子さん

応援団が、榊原郁恵さんとお聞きし、ワクワクドキドキしていました。今後の消防団活動の励みになります。ありがとうございました。

2月21日又は2月22日放送

2月28日又は3月1日放送



大阪府和泉市消防団
分団長 鈴木 寅蔵さん

息子と一緒に出演ということを知ったときは大丈夫かなと心配な部分もありましたが終ってみれば貴重な体験が出来て良かったです。



鹿児島県指宿市消防団
分団長 南 眞二さん

東北で辛いことがあった事、そして、今なお続いている事を遠くにいる我々も忘れません。小さな事ですが、未永く続けて行きたいと思えます。



平成27年3月放送分に
出演の消防応援団
サンドウィッチマンさん

3月7日又は3月8日放送



福島県飯館村消防団
団長 荒 利喜さん

このラジオ出演を通して、少しでも消防団の必要性を伝えることができたと思う。
今回のラジオをお聞き下さった方が「私も消防団に入団しよう」と思っていたらいいと思う。

3月14日又は3月15日放送



岩手県陸前高田市消防団
班長 熊谷 栄規さん

東日本大震災で、最前線で活動したのが消防団でした。
あの極限の中での体験談が、今後の消防団活動のお役に立てれば幸いです。

3月21日又は3月22日放送



宮城県南三陸町消防団
団長 山内 完二さん

震災当日の様子を述べることができ、今後の消防団活動に生かしたいと思っております。
大変ありがとうございました。

3月28日又は3月29日放送



茨城県北茨城市消防団
分団長 才丸 雅英さん

ふたりとの対談はとても光栄でした。
緊張して言葉が出てこなかったけど地元消防団の話は、伝えられたかと思えます。
これからも災害に備え地域のために消防団活動の充実に貢献していきます。



平成27年4月放送分に出演の消防応援団
麻木久仁子さん

4月4日又は4月5日放送



愛知県小牧市消防団
副団長 下島 淳一郎さん

東名、名神、中央高速道路が交わる交通の要所小牧市の消防団です。一致団結を合言葉に活動しています。近くにお越しの際には、是非寄ってみてください。

4月11日又は4月12日放送



奈良県五條市消防団
団員 東井 弘枝さん

麻木さんと山本アナが私の緊張をほぐしながら話を聞いて下さったので、五條市の取り組みを全国の皆様に発信することができました。

4月18日又は4月19日放送



愛媛県四国中央市消防団
団長 山川 彰夫さん

麻木久仁子さん、山本剛士さんのおかげで楽しい収録となりました。大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

4月25日又は4月26日放送



沖縄県うるま市消防団
団員 高良 亮さん

山本様、麻木様ラジオ対談の機会を頂き、ありがとうございました。また、全国の消防団員の皆様、是非うるま市へお越しください。

消防出初式と地域防災力アンケート結果について

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、全国各地で行われている消防出初式についてアンケート調査をいたしました。これは、最も華やかな消防イベントのひとつである消防出初式が、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨である地域全体の防災力の充実を進めていくための格好の機会となるのではないかとこの思いから、各地でのご苦労や工夫等について、全国から情報提供いただき、それらを皆様にフィードバックし、今後の出初式のご参考にさせていただきたくアンケート調査を実施したものです。

アンケートには全国各地の491消防団から回答を頂きましたが、その主な結果は次のとおりです。

1 出初式における消防団の主な活動項目

多くの出初式において消防団は重要な役割を担っており、消防活動展示から防火指導・啓発などに幅広く活躍している事例が多数ありました。

【主な活動例】

- ・ 消防活動訓練（演習）
- ・ 消防操法披露
- ・ 一斉放水
- ・ 部隊検閲
- ・ 防火指導・啓発
- ・ ラップ隊による演奏
- ・ 式典の司会進行等



2 実施日

休日開催や成人の日に開催するなど、地域住民等が参加しやすいよう実施日を工夫している事例が多数ありました。

【主な実施日例】

- ・ 土曜・日曜日等の休日に開催
- ・ 成人の日にあわせて（同会場で）開催
- ・ 地元の祭礼の日にあわせて開催
- ・ 毎年同日開催



3 実施会場

地域住民の目につきやすい・参加しやすい場所を会場として選定している事例が多くありましたが、その一方、分列行進等や消防演技等を行うことができる広さを持つ場所の確保に苦慮しているとの声も聞かれました。

【主な会場例】

- ・ 市街地等、商店街、基幹駅ロータリー等の中心部
- ・ 小・中学校校庭、防災公園、役場駐車場等
- ・ 観光名所、大規模商業施設等

- ・ 陸上競技場、屋内のホール、体育館等
- ※ 管内全域にわたり防火思想の普及啓発を図るという趣旨のもと、実施場所を毎年変更している事例もありました。

4 消防団以外の参加団体・機関及び活動内容

自主防災組織や女性（婦人）防火クラブ、少年消防クラブ等の防災関係者や企業の自衛消防隊などの地域防災の要となる個人・団体など幅広い方々が参加している事例が多くありました。

【主な参加団体】

- ・ 常備消防（全般）
- ・ 自主防災組織、災害時消防支援ボランティア（各種消防訓練、一斉放水等）
- ・ 女性（婦人）防火クラブ（初期消火訓練、炊き出し、パレード等）
- ・ 幼年消防クラブ・少年消防クラブ（パレード・行進、防火の誓い、各種消防訓練等）
- ・ 管内事業所の自衛消防隊（各種消防訓練、消火栓操法、一斉放水等）
- ・ 地元鳶組合（木遣り、はしご乗り等）
- ・ 自衛隊、警察、県防災航空隊（防災ヘリ、舟艇等による演技、パレード等）
- ・ 地元小中学生、大学生（吹奏楽演奏、パレード等）
- ・ 消防団協力事業所（主に表彰）
- ・ 赤十字奉仕団（応急救護訓練、パレード等）
- ・ ボーイスカウト、ガールスカウト（パレード等）
- ・ 市町村・消防のマスコットキャラクター、ご当地キャラ（防災体験コーナー等）

5 出初式の実施項目

多くの消防団で防火パレードや部隊検閲、自主防災組織や自衛消防隊、常備消防と連携した消防活動の展示を行っていました。また、一斉放水では色水を使うなどの工夫がみられました。

【主な実施項目例】

- ・ 市町村長、消防団長等からの年頭訓示、来賓等からの祝辞
- ・ パレード（職団員等、消防車両）、部隊検閲（市街中心地・商店街、国道等の大通り）
- ・ 纏振り、木遣り、はしご乗り
- ・ ラップ隊、和太鼓、拍子木
- ・ 防火祈願（神社参拝等）
- ・ 消防活動展示（救出救護訓練、消火訓練、応急救護訓練等）、消防操法展示
- ・ 来場者に対する防火啓発（応急救護、初期消火、地震時の行動等）
- ・ 一斉放水（色水を使用する事例もあり）
- ・ 炊き出し

6 出初式運営上の工夫

地域住民等の一般の来場者が見やすいよう工夫をしている例が多くみられました。また、特に子どもに対する防火啓発など子供向けのコーナーを設け若年者に対する防火・防災啓発に力を入れている事例も見受けられました。

【主な工夫例】

- ・ 一般者、団員家族席等の観覧席を設置
- ・ 大型ビジョンによる放映
- ・ 消防関係者や学識経験者等による講演

- ・ 意見発表会を開催
- ・ 手話通訳者の配置
- ・ 寸劇や子供参加型消防劇
- ・ 防災グッズ、非常食等のプレゼント
- ・ 餅まきや甘酒、お菓子の配布
- ・ 消防車両の展示、試乗、記念撮影や防火服の試着、記念撮影
- ・ 来場しやすい手段の確保(巡回バスの運行等)
- ・ 出店等による参加者が楽しめる雰囲気作り
- ・ 出初式を表彰式と活動演技等の2部制による実施
- ・ 屋内の施設と屋外を使い分けて実施



7 防災体験等による啓発

出初式会場に消防体験コーナーやキッズコーナーを設置するなど、防災に関する知識や技術の啓発に力を入れている事例が多く見られました。また、消防団員の募集広報を行い、成果を挙げている事例もありました。

【主な防災指導・啓発活動例】

- ・ 応急救護訓練(AED含む)
- ・ 消火器体験、放水体験
- ・ 煙体験
- ・ 地震体験(起震車等)
- ・ 防災クイズ
- ・ 防災啓発劇
- ・ 消防団員募集広報、消防団紹介パネル(映像)
- ・ 防災用品の展示、防火チラシ等の配布(住警器、救急車適正利用等)



8 表彰

出初式に併せて表彰式を行っている事例も多くあり、消防職団員への表彰を主としていますが、協力事業所や団員家族への表彰等、消防関係以外の団体や個人に表彰を行うなどの事例がみられました。

【主な表彰式例】

- ・ 団協力事業所等の表彰、交付式
 - ・ 消防団員家族表彰
 - ・ 自主防災組織等に対する無火災表彰
 - ・ 消防協力者に対する表彰
- ※ 表彰式実施後に受賞者を市町村広報誌等に掲載している事例もありました。



9 広報

出初式の実施に際して、多くの消防団で多様な媒体を用いて事前広報や事後広報を行っていました。

【主な広報媒体例】

- ・ 市町村長等の定例会見
- ・ 地元市町村広報誌、民間情報誌
- ・ ホームページ(市、消防署、消防団)、facebook等のSNS

- ・ 地元新聞社、地元テレビ局（ケーブルテレビ等）、地元ラジオ
- ・ 回覧板、ポスター・チラシ等
- ・ 巡回バス等への中吊り広告
- ・ 車両等による巡回広報
- ・ 防災行政無線（口頭、サイレン吹鳴）、行政情報告知端末（TV電話）

10 出初式に関連したその他の取組み

出初式実施日に管内居住者への啓発に取り組んでいる事例等がありました。

【主な取組み】

- ・ 管内住居への戸別訪問による防火啓発（チラシ配布等）
- ・ 広報車等による管内の防火広報、消防団員募集広報

【まとめ】

消防出初式が、消防のみならず地域全体の伝統行事として定着し、多くの方のご苦勞により盛大に運営され、様々な工夫が凝らされている様子が伺えました。

参加団体には、常備消防や消防団のほか、自衛隊、警察、企業の自衛消防隊や消防団協力事業所自主防災組織、女性（婦人）防火クラブ、幼少年消防クラブなどまさしく地域の防災を担う方々が数多く参加されている事例がありました。

また、活動内容も、地域の特色を生かしているところやはしご乗り等の伝統文化を特に重視しているところ、訓練披露や参加者に対する防災指導に力を入れているところなど防災活動に役立つ様々な取組みが行われていました。

一昨年に成立・施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」は、消防団が地域防災にとって代替性のない存在と明記されるなど、消防団が地域防災力の向上に果たす役割に大きな期待が寄せられています。

こうした中で、各地域で行われている消防出初式を従来型の消防の雄姿披露や防火祈願に加えて、幅広い多数の皆さんの参加により地域防災についての理解を深め、一人ひとりの活動が大事だという気持ちをもって頂く貴重な機会として活用していくことが益々求められるでしょう。

総合情報誌「地域防災」の創刊

地域防災に関する新たな総合情報誌「地域防災」が、平成27年4月15日に創刊されました。

これは、国、地方公共団体の政策動向や消防団を含む全国各地の具体的な取組みなどを一覧できるように取りまとめたものです。

消防団はもとより、一般の皆さんにもご覧頂き、地域防災体制強化のお役に立つことを願っています。

日本防火・防災協会からの発刊ですが、日本消防協会も協力しています。全国の消防団、消防署にお配りしていますのでご覧ください。





兵庫県福崎町消防団 団長 瀧川 格威

1 はじめに

平成27年3月10日、日本消防会館(ニッショーホール)において「第67回日本消防協会定例表彰式」が厳粛かつ盛大に挙行され、消防団最高の栄誉である特別表彰「まとい」を受章いたしました。



全国2,200余りの消防団の中からこの栄誉ある表彰を受章できましたことは、われわれ消防団員はもとより、諸先輩方や消防関係者の方々、さらに福崎町民にとりましてもの上ない喜びであり、誇りであります。

これもひとえに、町民の皆様の消防団に対するご理解とご協力、更に日本消防協会、兵庫県消防協会、並びに消防関係者の皆様の温かいご支援の賜であると深く感謝申し上げます。

また、福崎町消防団の長い歴史において、輝かしい功績を築きあげていただいた諸先輩方、町民の安全と安心を守るため、昼夜を問わず活動している消防団員と、その活動を陰から支えてこられましたご家族の皆様に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

2 福崎町の紹介

福崎町は、兵庫県の中央部よりやや南側に位置し、播磨平野の北西部の一角を占めています。周辺の多くを緑の山に囲まれ、東は加西市、西及び南は姫路市、北は市川町にそれぞれ隣接し、姫路市の中心より約17kmの距離にあります。町域は10.1km、南北11.5kmで、総面積は45.79km²となっています。

また、中国縦貫自動車道と播但連絡自動車道が町のやや南側の中央部で交差し、「福崎インターチェンジ」をもつ広域的な交通の要衝地でもあります。

気候は、概ね瀬戸内海型に属し穏やかですが、内陸型気候の影響も受けており、沿岸地域と比較して寒暖の差が大きくなっています。地形は、町の中央部を市川がほぼ南北に貫流し、西及び北西、東側は山地となっており、平野部は南方面に開けています。

当町は、姫路市の発展によりベッドタウン的な性格を有するようになり、また、立地条件の良さから多くの企業も工業団地に進出し、活気のあるまちに発展してまいりました。その一方、本町は、文化勲章を受章された民俗学の柳田國男と船舶工学の吉識雅夫をはじめとして、日本画家の松岡映丘、万葉学者の井上通泰、言語学者の松岡静雄など、多くの文化人を輩出しています。

3 福崎町消防団について

昭和31年5月3日、田原村、八千種村、旧福崎町の合併によって福崎町が誕生し、それに伴い旧1町2村の消防団が統合され、福崎町消防団が発足しました。

その後、分団の統合、定数削減をおこない、現在は32分団、600名、消防ポンプ自動車2台、小型動力ポンプ積載車30台となっており、複雑多様化する火災や風水害等の災害から住民の生命、身体、財産を守るため、各種訓練を実施するなど消防技術の向上に努めています。

消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図るため、福崎町消防団消防操法大会を毎年実施しており、団員は日々訓練に励んでいます。平成20年度から4大会連続して兵庫県消防操法大会に出場し、小型ポンプの部で4大会連続優勝という快挙を遂げています。

平成22年度には第22回全国消防操法大会に兵庫県代表として初めて出場し、見事、小型ポンプの部において優勝の栄誉に輝きました。これは、兵庫県代表としては初の快挙でもあるとともに、本大会優勝により県内消防団の士気高揚並びに消防団活動のさらなる活性化に大きく貢献するものでありました。前回大会に引き続き2度目の出場となった第24回全国消防操法大会では、2連覇を目指して訓練の成果を遺憾なく発揮しました。結果、わずかな差で優勝には届きませんでしたでしたが、準優勝という輝かしい成績をおさめることができました。



当消防団の活動としましては、火災による消火活動をはじめ、風水害等の災害活動はもとより、各種訓練の実施や講習会の受講など、消防の知識及び技術を修得し、消防団員としての資質の向上を図っています。

また、全国火災予防運動にあわせた啓発パレード、年末特別警戒などを実施し、年間を通じて防災意識の高揚に努めています。

地域住民による迅速な初期消火活動が行なわれるよう、自主防災組織と連携し消火訓練を実施しており、地域防災力の充実強化に努めています。

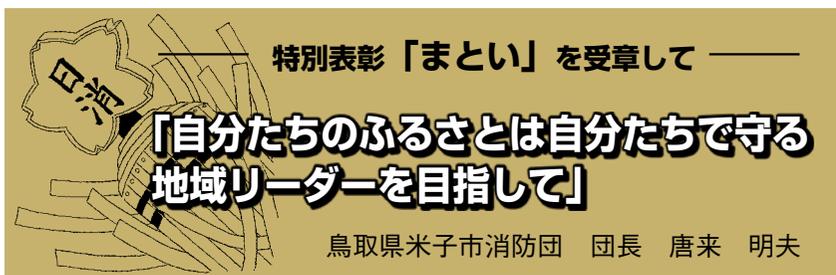
4 おわりに

近年、火災をはじめとする災害は複雑多様化しており、地震や風水害等の大規模な自然災害が多発しています。未曾有の被害をもたらした東日本大震災においては、消火活動、救助活動、捜索活動等、幅広い活動を行い、多くの人命が救出されるなど、地域密着性や大きな要員動員力を有する消防団の役割の重要性が再認識されました。

こうしたことから、町民の消防団へ対する期待はますます高まっています。この度の「まとい」受章の誇りを胸に、より一層知識の向上と消防技術を錬磨し、町民が安心して暮らせるまちづくりを目指していきたいと考えています。

最後に、この栄誉ある特別表彰「まとい」の受章にあたりまして、格別のご高配を賜りました日本消防協会をはじめ、兵庫県、兵庫県消防協会並びに消防防災関係者各位の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げます、受章のご挨拶とさせていただきます。





1 はじめに

平成27年3月10日に開催されました第67回日本消防協会定例表彰式において、消防団としての最高栄誉である特別表彰「まとい」を受章いたしました。



このたびの受章は、先輩団員諸氏、消防関係機関、市民の皆様からの多大なるご支援の賜物であると心から感謝申し上げます。

また、それを陰から支えていただいている団員のご家族に対しましても厚くお礼を申し上げます。

2 鳥取県米子市の紹介

米子市は鳥取県西部に位置し、平成17年3月にそれまでの「米子市」と「淀江町」が合併し誕生しました。

人口は約15万人で、東には、「伯耆富士」とも呼ばれる国立公園大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で2番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に囲まれています。

古くから交通の要所として、商業を

中心に発展してきた米子市は、春には湊山公園の桜まつり、日吉神社の神幸祭、夏にはトライアスロン発祥の地で開催される全日本トライアスロン皆生大会、米子がいな祭、淀江町盆踊り花火大会など全国に誇れるイベントを数多く開催しております。

3 消防団の紹介

米子市消防団は、市町合併とともに新米子市消防団として発足し、本年3月に10周年を迎えました。旧市町消防団の体制を踏襲したブロック編成とし、現在4ブロックのもと、28分団(うち女性分団1)、団員数512名(うち女性21名)で活動しております。



操法大会においては、平成24年に全国大会へ初出場しました。小型ポンプ操法の部において、6位入賞するなど、目覚ましい活躍がみられ、日頃の訓練・活動の成果が結果に



反映されているものと嬉しく思います。

本市における昨年の火災は49件発生しましたが、うち建物火災は22件となっており、年々減少傾向であります。日頃の火災予防活動や、常備消防と連携し取り組んでいる「住宅用火災警報器設置」等の啓発活動が功を奏してきたものと思っております。

また、平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行されました。これを受け、本市では、将来の消防団員の確保や学童期からの防火への意識付けを図ることなどを目的に、昨年8月に、消防団の下部組織としての少年消防クラブを発足し、夜間パトロールのほか規律訓練や消火訓練を行っております。

8月に開催される花火大会では、消防団員が大会関係機関と連携を図り、警戒業務を行うなど安全確保に努めております。

更に、女性分団は、主に広報・啓発分野を担い、幼稚園児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、地域へ出向いてリスクウォッチ・AED指導など様々な啓発活動を行っております。

平成23年9月の台風12号の襲来時には市内の各河川の氾濫が危惧されたため、14分団が出動しました。長時間にわたり住民を避難させるためボートを活用するなどの支援や水防活動を行い、住民から感謝の意をいただきました。

また、平成24年5月には、隣接する大山町で遭難事故が発生し、消防団相互応援協定に基づき、自衛隊・警察のほか他町消防団と連携を図りながら捜索を行い、遭難者の発見に至りました。

近年、当地域では、幹線道路が封鎖されるような豪雪、水害、地震など甚大な被害が出る自然災害が発生しております。

今後の消防団活動では、消防団協力事業

所制度や地域の自主防災組織と連携した訓練を行うなど、地域に密着した活動を住民と協働して行い、安全安心なまちづくりに努めてまいります。

4 おわりに

米子市消防団では、災害に対応できる体制を維持し、組織力の向上を図るため日頃の訓練を重ねるとともに、市民との連携・協働のもと、「地域に根ざした消防団」、「市民の信頼に応えられる消防団」を目指してまいります。

このたびの受章にあたり、格別なご高配を賜りました日本消防協会、鳥取県消防協会をはじめ消防関係機関各位の皆様に厚く感謝を申し上げ、受章の挨拶といたします。





上杉謙信公の「義」の 精神を胸に郷土を守る



上越市消防団 団長 大島 正春

1 上越市の紹介

上越市は新潟県の南西部に位置し、日本海に面した人口約20万人の特例市です。古くから交通の要衝として栄え、現在も重要港湾である直江津港や北陸自動車道、上信越自動車道のほか、今年3月に開業した北陸新幹線の上越妙高駅があります。

観光面では、徳川家康の六男・松平忠輝公の居城「高田城」跡が、現在高田公園として整備され、毎年ライトアップされる約4,000本の桜は、「日本三大夜桜」のひとつとされています。この他にも市役所近くの春日山には、この地を治めた戦国時代の名将・上杉謙信公の居城跡があり、謙信公の「義」の精神は、今でも市民に受け継がれています。

2 上越市消防団の概要

上越市消防団は昭和47年4月1日に発足しました。平成17年1月1日には14市町村による大合併があり、平成27年4月2日現在、14方面隊53分団222部、団員4,494人が市民の安全・安心を守るため活動しています。このほか式典等で吹奏するラップ隊や悪路でも出動が可能なバイク隊を組織しています。

また、平成9年から女性団員の入団を進



消防フェスティバル

め、現在33人が在籍し、防火啓発活動や応急手当普及員として自主防災組織の防災訓練や普通救命講習会の講師として活躍しています。

車両は、日本消防協会から寄贈いただいた多機能型消防車を始め、積載車255台、ポンプ車27台、照明車2台、バイク3台、指令車16台を所有しています。また、市内には一級河川の関川を始め、中小河川も多くあることから、要所には水害に備え救命ボートを配備しています

3 上越市消防団の活動

上越市消防団では、上越市と隣接する妙高市とにより構成する「上越地域消防事務組合」(以下「上越地域消防」という。)と連携した活動に取り組んでいます。

その一環として、これまで上越地域消防が単独開催していた市民参加型・体験型イベント「消防フェスティバル」に、平成26年度から消防団も共催として携わることとなりました。車両の展示や乗車体験、子供防火衣の着用体験や放水体験等を通じて、上越地域消防とともに、楽しみながら広く市民へ消防活動をPRするとともに、防火・防災意識の高揚を図りました。

また、1月に市と消防団、上越地域消防が開催する消防出初式では、消防車両パレードを実施します。消防団の車両に加え、上越地域消防のはしご車や救急車等、約70台が正月で賑わう市内大通りを隊列を組んで進みます。

訓練においては、「密集地域火災防ぎょ訓練」を実施し、住宅が密集している地域において、地元の消防団と上越地域消防とが連携し、迅速かつ円滑な消火活動ができるよう放水訓練を行いました。

消防団と上越地域消防とが相互に連携・協力し、目の前の災害に立ち向かっていくことが、市民の安全・安心を確実に守るためには必要であり、今後も継続していきます。

4 おわりに

消防団の特長は、「地域密着性」、「要員動員力」、「即時対応力」と言われており、いざ災害が発生した際には大きな力を発揮し、住民の安全・安心を確保します。

その反面、消防団は災害の初動時において最前線で危険と隣り合わせにいる立場であり、団員自身の安全確保が重要であると考えます。当市消防団でも平成27年1月に「消防団地震・津波発生時安全管理マニュアル」を作成し、安全を確保した上に成り立つ消防団活動について、今一度、考えました。

団員の勇気ある行動も命があつてのことだと思えます。

当市消防団は、上杉謙信公の「義」の精神を尊ぶとともに、日々の訓練を通じて、いざというときに自らの安全を確保しつつ、愛する郷土を守るために何が必要かを考え、一丸となって活動していきたいと考えています。



消防出初式



市民の期待に 応えるために



近江八幡市消防団 団長 松本 春男

1 近江八幡市の紹介

近江八幡市は、滋賀県のほぼ中央、琵琶湖東岸に位置するまちで、平成22年3月に、旧近江八幡市と安土町が合併して誕生しました。

東西17km、南北20.8km、面積177.39km²で、人口82,369人（平成27年3月1日現在）。豊かな自然に囲まれたまちで、母なる湖 琵琶湖をはじめ、市の北東部にはラムサール条約登録湿地である西の湖の水郷地帯が四季の折々の美しい姿を見せてくれます。また、織田信長が天下布武の足掛かりとして、また、豊臣秀次がまちづくりの拠点として、それぞれの居城を構えた場所としても知られ、先人たちの息遣いを、まちのいたるところで感じることができます。

2 近江八幡市消防団の紹介

近江八幡市消防団は、長年に渡り歴史と伝統を紡いできた2つの市町の消防団が合併し、平成22年3月に新たな一步を踏み出しました。全団員数は477名（男性467名、女性10名）。女性分団であるOFL分団を含む12の分団で構成され、11台のポンプ車と1艇の消防艇を中心に活動しています。



出初式

3 近江八幡市消防団の活動

近江八幡市消防団の特徴の一つが、琵琶湖最大の島で、淡水湖では国内唯一の有人島である沖島に沖島分団が配備されていることです。沖島には、現在309名の方が暮らしていますが、陸路での交通手段がないため、常備消防の到着には相当の時間を要します。このため、沖島分団の「自分たちの島は、自分たちで守る」という使命感は人一倍強く、消防艇を使っただけにとどまらず、救急搬送、湖上で救助・捜索など多岐にわたっています。

また、女性分団であるOFL分団の活動も活発で、紙芝居や着ぐるみを使った、保育所・幼稚園での防火訪問をはじめ、街頭での啓発活動や各種訓練時の指導など、女性ならではのしなやかで、きめ細やかな視

点を活かした取り組みが、本市消防団の活動の幅を大いに広げてくれています。

そして、これらの分団を含む12分団が、時に切磋琢磨し、時に一枚岩となり、市民の安心で、安全な暮らしを守るために、日々、活動しています。

4 終わりに

阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめとする巨大地震を経験し、我々は自然災害の凄まじさを目の当たりにしました。また、頻発するゲリラ豪雨や大型台風など災害の規模や様態も大きく変化し、本市においても昨年、一昨年と市民の避難をともなう災害に見舞われました。このような状況の中、市民の防災に対する意識はますます高まっており、我々消防団に期待される役割もこれまで以上に多様化しています。その期待にお応えすることができるよう、常備消防や地域の自主防災組織などとも連携を図りながら、消防人としての力をさらに向上させ、これからも全力で近江八幡市の防災力の一翼を担っていきたいと思います。



OFL分団 紙芝居



沖島 消防艇



ポンプ操法大会



「未来につなげる 活力のある消防団を 目指して」



周南市消防団 団長 島中 巧

1 周南市の紹介

周南市は、NHK大河ドラマ『花燃ゆ』でおなじみの山口県の東南部に位置し、北は中国山地の西端部に、南は瀬戸内海に面し、豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。

主要駅である徳山駅は、「のぞみ」を始めとする新幹線と山陽本線、岩徳線が停車し、市内には高速道路のインターチェンジが4ヶ所あり、どの交通手段からもアクセスが可能です。また、「文化会館」や「美術博物館」、まちなかの「動物園」に「総合スポーツセンター」など、各種コンベンションの開催に適した施設や宿泊施設が多く、規模や目的に応じて使い分けることができるコンベンションシティです。

沿岸部の徳山港は天然の良港で、ふぐ延縄漁の発祥地であることから、市内にはふぐ料理を味わうことのできる店がたくさんあり、「周南たこ」や「周防はも」と共に市の名物となっています。また、山間部では

薫り高いわさびやぶどう、梨が収穫でき、巨峰ワインや地酒の種類も豊富であり、季節に応じて自然のめぐみから誕生したおいしさが味わえます。

近年では、工場群の幻想的な夜景を見て楽しむ工場夜景鑑賞が全国的に脚光を浴びてきており、百田尚樹さんの小説『海賊とよばれた男』に登場する出光興産徳山製油所（現在は徳山事業所）は有名ですが、これを含む周南コンビナートの工場夜景は「日本六大工場夜景都市」に数えられ、晴海親水公園から眺める工場夜景が日本夜景遺産の認定を受けるなど、全国的にも高い評価を得ています。

2 周南市消防団の概要

周南市消防団は、平成の大合併により平成15年4月21日に徳山市消防団、新南陽市消防団、熊毛町消防団、鹿野町消防団が合併し周南市消防団となりました。団本部、5方面隊、18分団、35支部で編成され、団員数1027人、車両数76台の体制で地域防災の中核組織として周南市の安心安全を守っています。

3 周南市消防団の活動

周南市消防団の活動は、1月に行う消防出初式での腕用ポンプによる放水に始まり、消防本部と合同で行う新入団教育や幹部教



周南市消防出初式 分列行進

育、普通救命講習、消防操法大会、各方面隊主催の消防訓練、周南市総合防災訓練、年末に行う夜警で1年を締めくくっています。

各方面隊主催の消防訓練では、管轄署員と合同で地域の実情に合わせた訓練を行い、署員と団員との間で顔の見える関係の構築を図っています。また、最近では防災航空隊との合同訓練や救命ボートなどの救助資機材を使用した救助訓練、自主防災組織との避難誘導訓練等に加え、大規模災害時の情報収集・伝達を目的としたアマチュア無線免許の取得など積極的な活動を行うことで、多種多様化する災害に対応できる団員の育成を目指しています。さらに、消防新聞の発行や親睦体育大会などを行うことで、各分団員間の一体化に加え、隣接市消防団との関係強化にも努めています。

4 消防団充実強化への取り組み

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定にあわせ、市消防団充実強化検討会を設置して、消防団の装備や教育訓練の充実強化を検討しているところですが、「充実強化には、常備消防との更なる連携強化が不可欠である。」という各分団からの意見に重点を置き、署活動隊の責任者に現場指揮者識別用ベストを装備させ、団活動隊が容易に合流できるように図っています。また、消防本部と消防団において円滑に行えた災害活動事例の発表を行い、今後の活動に活用するための事後検証会の開催などを計画し、消防本部と消防団の連携・連動による消防体制の強化に向けた活動を行っています。



山口県消防操法大会



消防団訓練

5 おわりに

近年、山口県内各地で集中豪雨による大規模な災害が続けて発生しており、周南市におきましても、山地が多く起伏し、土砂災害等、大規模災害の発生が危惧されております。東日本大震災以降、市民の消防団に対する期待はより大きなものとなっておりますが、「地域住民の安心・安全は消防団が守る!」という強い信念のもと、一致団結し「安心して暮らせるまちづくり」に全力で取り組んでまいります。



シンフォニー（熊本県）

「女性消防団員として」

南阿蘇村消防団 女性分団長
峰 江梨子

南阿蘇村は、世界最大級の巨大カルデラ、阿蘇カルデラ内の南部に位置し、名水百選に選ばれた「白川水源」や数多くの温泉を有する自然あふれる村で、平成17年に白水村、久木野村、長陽村が合併して誕生しました。平成の大合併での「村」の新設は南阿蘇村が第1号で、総人口は1万2千人ほどです。ちなみに、村を選択した理由としては「自然の中にあるというイメージを大切にしたい」という意味合いが込められているとのことです。

女性分団は、平成23年1月に15名の団員で発足しましたが、当初は規律や防火広報の意味もわからないし、とにかく何をしたいかわからず、そもそも女性分団は何をする為にあるのだろうという状態からのスタートでした。

私はそのような状況の中、子育てや仕事にゆとりがあり活動に参加しやすいという理由で初代分団長となりました。分団活動をどうすべきか考えなくてはならない立場になりましたが、分団長とはいえ新入団員です。団長や消防主任に何度も相談し、まず団員活動の基本となる規律訓練から始め、通常点検や操法競技への参加を目標にすることにしましたが、広報活動が主な活動と聞いて集まった女性団員でしたので反対意見も多い状況でした。しかし、その当



災害後のボランティア活動

時は他にすることがわからず、「消防団員の基本であるならとりあえずやるしかない。」と、団員の負担にならない時間を選び訓練しました。また、熊本県は女性団員の活動が盛んな地域が多く、女性消防団活性化セミナーが開催される時には団員で参加し、先進地の事例などを勉強した後に、おいしいランチを食べることにしました。その結果、和やかな雰囲気の中で打ち解けあい話を深めることができ、分団活動に活気が生まれ始めました。その甲斐あってか、毎年出初め式で行われる通常点検競技では男性分団に混ざり、初出場の平成24年には優勝、平成25年には2連覇達成、翌年3位、今年は2位と、抜群のチームワークで輝かしい成績をおさめています。また、平成25年には熊本県女性消防操法大会に初出場しました。発足当初は出場に反対する声が多

かったのですが、選手や、それを支える団員が、「成功させるぞ!」「全国大会に行きたい!」という気持ちで一致団結し、夜遅くまで家庭や仕事を犠牲にしながらも頑張りました。残念ながら入賞はできませんでしたが、団員同志が支えあう事の大切さ、女性分団を支え指導して下さる消防職員や男性団員の方々、活動を見守ってくれた家族のありがたさに気づかされる良い機会となりました。

この経験で、私たちも消防団活動が少しずつ理解できるようになり、最近は分団会議の質も高くなってきたように感じます。発足当初から手探りのなか、規律訓練、春と秋の全国火災予防運動や年末火災予防運動期間中には広報車で啓発活動、文化祭では煙体験や水消火器訓練、非常持ち出し袋の紹介などを行ってきましたが、平成24年7月12日に村を襲った九州北部豪雨災害を受け、活動に対する考え方が変わりました。真夜中の集中豪雨による土石流で2名の尊い命が奪われ、家屋や農地など多くの被害が発生しました。恐ろしいほどの豪雨に夏の朝とは思えない空の暗さ、異様な雰囲気の中に防災行政無線のサイレンが鳴り響き住民避難の呼びかけや消防団召集の放送が流れました。しかし、女性分団は待機命令で、現場の状況もわからないまま支援活動もできず、歯がゆい思いでテレビやラジオからの情報に耳を傾けていました。分団員も同じ気持ちを持っていたようで、何か役に立てればと女性分団全員でボラン



保育所での布防災頭巾作りの講習

ティアに参加し土石流により壊れた家屋の瓦礫の撤去などを行いました。作業については全員素人ばかりで、ボランティアリーダーの指示に従い動くのが精一杯で、私たちの知識や経験が浅いことを考えさせられました。

この経験を踏まえて、現在私たちは身近で親近感のある広報活動を目指し、保育園、小学校を対象として「布防災頭巾」の普及広報活動に取り組み、自分の身は自分で守る事の大切さを伝えたいと思っています。現在、阿蘇中岳の火山活動が活発化しているところでもあり、保護者も興味を持って聞いていただいています。

私たちの女性分団は発足してまだ4年と短いですが、新しいメンバーも増えています。自分たちには何ができるのかを等身大で考え、いつかは地域住民の方々の心強いサポーターとなれるよう消防団活動を努めていきたいと思っています。

平成27年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

◇春の叙勲（消防関係）

平成27年5月14日（木）、ニッショーホールにおいて、平成27年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝中綬章・・・ 1名

瑞宝小綬章・・・ 20名

旭日双光章・・・ 1名

瑞宝双光章・・・106名

瑞宝単光章・・・481名

◇春の褒章（消防関係）

平成27年5月15日（金）、スクワール麴町において、平成27年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章・・・ 1名

黄綬褒章・・・ 6名

藍綬褒章・・・ 84名

◇第24回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成27年5月11日（月）、日比谷公会堂において、第24回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

瑞宝双光章・・・330名

瑞宝単光章・・・291名

平成27年度春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞小	北海道	元札幌市 消防正監	相生 武志 (70)	男		瑞単	北海道	元江別市消防団 分団長	井嶋 保 (71)	男	
瑞小	北海道	元札幌市 消防正監	澤田 鐵夫 (70)	男		瑞単	北海道	元輸山広域行政組合 せたな町大成消防団 副分団長	若澤 弘 (78)	男	
瑞双	北海道	元札幌市北消防団 団長	金森 森忠 (73)	男		瑞単	北海道	元留辺藪町消防団 副団長	植松 和磨 (72)	男	
瑞双	北海道	元北留萌消防組合天 売消防団 団長	竹中 司 (78)	男		瑞単	北海道	元旭川市消防団 副団長	太田 浩司 (73)	男	
瑞双	北海道	元登別市消防団 団長	成田 幸久 (74)	男		瑞単	北海道	元砂川地区広域消防 組合浦臼消防団 副団長	大脇 實 (71)	男	
瑞双	北海道	元稚内地区消防事務 組合釧路消防団 団長	堀井 忠 (75)	男		瑞単	北海道	元根室市消防団 分団長	影沼澤 潔 (80)	男	
瑞双	北海道	元釧路東部消防組合 浜中消防団 団長	木間 哲夫 (71)	男		瑞単	北海道	元石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 分団長	上山 巖 (80)	男	
瑞双	北海道	元南渡島消防事務組 合北斗消防団 団長	溝井 矢一 (77)	男		瑞単	北海道	元富良野地区消防組 合富良野消防団 分団長	菅野 功 (75)	男	
瑞単	北海道	元南宗谷消防組合浜 頓別消防団 副分団長	相川 徳春 (80)	男		瑞単	北海道	元旭川市消防団 分団長	菊田 壽一 (73)	男	
瑞単	北海道	元苫小牧市消防団 副団長	穴田 護 (70)	男		瑞単	北海道	元北留萌消防組合初 山別村消防団 副団長	木村 榮助 (80)	男	
瑞単	北海道	元砂川地区広域消防 組合奈井江消防団 副団長	阿部 謙一 (75)	男		瑞単	北海道	元釧路北消防事務 組合川湯消防団 分団長	小林 三男 (76)	男	
瑞単	北海道	元恵庭市消防団 部長	荒 秀行 (73)	男		瑞単	北海道	元商賚市函館消防団 分団長	小柳 興生 (73)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	北海道	元長万部町消防団 副団長	佐藤 重吉 (74)	男		瑞単	北海道	元日高西部消防組合 日高消防団 副団長	西 弘美 (74)	男	
瑞単	北海道	元北十勝消防事務組 合音更消防団 分団長	佐藤 丈志 (73)	男		瑞単	北海道	元日高中部消防組合 静内消防団 副団長	野坂 洋治 (72)	男	
瑞単	北海道	元東十勝消防事務組 合池田消防団 副団長	庄司 歡 義 (74)	男		瑞単	北海道	元南空知消防組合長 沼消防団 団長	尾藤 武男 (76)	男	
瑞単	北海道	元西胆振消防組合洞 爺湖消防団 副団長	白川 幸治 (71)	男		瑞単	北海道	元北後志消防組合余 市消防団 副団長	藤 塚 利 幸 (75)	男	
瑞単	北海道	元渡島西部広域事務 組合木古内消防団 副団長	竹内 俊 (75)	男		瑞単	北海道	元帯広市消防団 副団長	牧野 昌徳 (73)	男	
瑞単	北海道	元北留萌消防組合天 塩町消防団 副団長	田所 政 雄 (79)	男		瑞単	北海道	元富良野地区消防組 合富良野消防団 副分団長	松 居 高 雄 (76)	男	
瑞単	北海道	元西胆振消防組合 警消防団 分団長	田 嶋 良 恵 (73)	男		瑞単	北海道	元岩内・寿都地方消 防組合共和消防団 副団長	松 田 哲 雄 (70)	男	
瑞単	北海道	元富良野広域連合富 良野消防団 団長	玉 手 英 信 (75)	男		瑞単	北海道	元根室北部消防事務 組合中標津消防団 副団長	水 沼 勝 明 (76)	男	
瑞単	北海道	元上川南部消防事務 組合上富良野消防 副団長	鐵 野 久 (74)	男		瑞単	北海道	元夕張市消防団 分団長	南 勝 昭 (72)	男	
瑞単	北海道	元釧路西部消防組合 阿寒消防団 副団長	道 見 繁 雄 (80)	男		瑞単	北海道	元紋別地区消防組合 紋別消防団 副団長	三 室 博 (67)	男	
瑞単	北海道	元滝川地区広域消防 事務組合戸別消防 副団長	中 絃 治 (72)	男		瑞単	北海道	元東十勝消防事務組 合幕別消防団 分団長	三 好 明 (79)	男	
瑞単	北海道	元深川地区消防組合 深川消防団 分団長	中 川 幸 太郎 (74)	男		瑞単	北海道	元千歳市消防団 分団長	村 田 刀 一 (76)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	北海道	元 羊蹄山ろく消防組合喜茂別消防団副団長	八重樫 護 (76)	男	
瑞単	北海道	元 小樽市消防団分団長	吉田 一雄 (72)	男	
瑞双	青森県	元 西目屋村消防団団長	山下 竹男 (70)	男	
瑞双	青森県	元 鯨ヶ沢町消防団団長	工藤 清三 (76)	男	
瑞双	青森県	元 八戸市消防団団長	藤田 正次郎 (69)	男	
瑞双	青森県	元 蓬田村消防団団長	八幡 敏雄 (69)	男	
瑞単	青森県	元 倉石村消防団分団長	赤坂 榮吉 (74)	男	
瑞単	青森県	元 藤崎町連合消防団常盤消防団団長	石澤 英徳 (69)	男	
瑞単	青森県	元 五所川原市消防団分団長	伊藤 肇一 (76)	男	
瑞単	青森県	元 外ヶ沢町消防団副団長	小野寺 幸治 (70)	男	
瑞単	青森県	元 下田町消防団分団長	上久保 新一 (73)	男	
瑞単	青森県	元 むつ市消防団副団長	杉山 武美 (73)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	青森県	元 東北町消防団副団長	千葉 勝志 (73)	男	
瑞単	青森県	元 金木町消防団副団長	中村 健男 (73)	男	
瑞単	青森県	元 青森市青森消防団分団長	奈良岡 俊勝 (71)	男	
瑞単	青森県	元 三沢市消防団分団長	林 廣喜 (71)	男	
瑞単	青森県	元 弘前市消防団分団長	藤森 弘弘 (74)	男	
瑞単	青森県	元 佐井村消防団副分団長	松谷 喜久男 (77)	男	
瑞単	青森県	元 南郷村消防団副団長	水口 峰 (71)	男	
瑞単	青森県	元 深浦町消防団分団長	柳原 清繁 (76)	男	
瑞単	青森県	元 南部町消防団団長	山田 洋 (71)	男	
瑞双	岩手県	元 山田町消防団団長	菊地 民雄 (77)	男	
瑞双	岩手県	元 大槌町消防団団長	煙山 佳成 (76)	男	
瑞双	岩手県	元 八幡平市消防団団長	高橋 守男 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	岩手県	元 盛岡市消防団団長	西村 紀昭 (74)	男	
瑞双	岩手県	元 二戸市消防団団長	野崎 秀志 (70)	男	
瑞単	岩手県	元 熊沢町消防団分団長	阿部 一二 (82)	男	
瑞単	岩手県	元 北上市消防団副団長	池田 祐幸 (78)	男	
瑞単	岩手県	元 滝沢市消防団副団長	石川 邦夫 (64)	男	
瑞単	岩手県	元 山田町消防団副団長	内籬 市幸 (77)	男	
瑞単	岩手県	元 久慈市消防団副分団長	大久保 精一 (78)	男	
瑞単	岩手県	元 花泉町消防団分団長	奥山 喜美雄 (79)	男	
瑞単	岩手県	元 奥州市水沢区消防団副団長	小野寺 清志 (74)	男	
瑞単	岩手県	元 釜石市消防団分団長	菊池 重年 (74)	男	
瑞単	岩手県	元 宮古市消防団分団長	鈴木 勝視 (81)	男	
瑞単	岩手県	元 雫石町消防団分団長	関 時弘 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	岩手県	元 大野村消防団分団長	関口 福芳 (75)	男	
瑞単	岩手県	元 岩手町消防団分団長	千葉 幸一郎 (77)	男	
瑞単	岩手県	元 紫波町消防団分団長	折澤 博夫 (72)	男	
瑞単	岩手県	元 宮古市消防団副分団長	長澤 日出男 (77)	男	
瑞単	岩手県	元 一戸町消防団分団長	畑山 國男 (72)	男	
瑞単	岩手県	元 大迫町消防団分団長	藤 篤明 (79)	男	
瑞単	岩手県	元 遠野市消防団分団長	山口 勝俊 (74)	男	
瑞単	岩手県	元 陸前高田市消防団団長	吉田 貞雅 (74)	男	
瑞単	岩手県	元 盛岡市消防団分団長	吉田 甚吉 (80)	男	
瑞単	岩手県	元 種市町消防団分団長	和野 光男 (72)	男	
瑞双	宮城県	元 女川町消防団団長	鈴木 正文 (70)	男	
瑞双	宮城県	元 七ヶ浜町消防団団長	渡邊 初男 (79)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	宮城県	元 歌津町消防団 分団長	阿部 清 (80)	男	
瑞単	宮城県	元 石巻市雄勝消防団 分団長	阿部 幸平 (76)	男	
瑞単	宮城県	元 女川町消防団 分団長	阿部 初郎 (76)	男	
瑞単	宮城県	元 多賀城市消防団 分団長	大江 廣郎 (78)	男	
瑞単	宮城県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	小橋 源助 (86)	男	
瑞単	宮城県	元 村田町消防団 分団長	小山 謙蔵 (77)	男	
瑞単	宮城県	元 柴田町消防団 分団長	笠松 忠一 (79)	男	
瑞単	宮城県	元 利府町消防団 団長	鎌田 勝衛 (73)	男	
瑞単	宮城県	元 花山村消防団 副団長	後藤 榮喜 (70)	男	
瑞単	宮城県	元 大和町消防団 副団長	佐々木 誠一 (70)	男	
瑞単	宮城県	元 登米市消防団 副団長	佐々木 満之 (70)	男	
瑞単	宮城県	元 気仙沼市唐桑消防団 分団長	佐藤 一三 (79)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	宮城県	元 川崎町消防団 分団長	佐藤 健二 (85)	男	
瑞単	宮城県	元 石巻市石巻消防団 分団長	佐藤 善男 (77)	男	
瑞単	宮城県	元 丸森町消防団 副団長	穴戸 邦義 (73)	男	
瑞単	宮城県	元 多賀城市消防団 分団長	鈴木 英廣 (78)	男	
瑞単	宮城県	元 栗原市消防団 副団長	曾根 淳 (72)	男	
瑞単	宮城県	元 登米市豊里町消防団 副団長	千田 政勝 (72)	男	
瑞単	宮城県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	榎田 隆 (86)	男	
瑞単	宮城県	元 栗原市消防団 分団長	中村 清一 (71)	男	
瑞単	宮城県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	沼田 豊雄 (86)	男	
瑞単	宮城県	元 気仙沼市消防団 分団長	畠山 義規 (78)	男	
瑞単	宮城県	元 登米市東和町消防団 副団長	三上 三次 (70)	男	
瑞単	宮城県	元 大河原町消防団 分団長	水戸辺 庄治郎 (81)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	宮城県	元 亘理町消防団 団長	森 義重 (79)	男	
瑞単	宮城県	元 美里町消防団 副団長	我妻 慎悦 (71)	男	
瑞単	宮城県	元 志津川町消防団 分団長	渡邊 榮記 (79)	男	
瑞単	秋田県	元 大森町消防団 分団長	赤川 榮悦 (73)	男	
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 副団長	阿部 八十一 (72)	男	
瑞単	秋田県	元 横手市増田消防団 副団長	石山 利則 (72)	男	
瑞単	秋田県	元 大仙市消防団 副団長	伊藤 作十郎 (71)	男	
瑞単	秋田県	元 北秋田市消防団 副団長	五代 博紀 (73)	男	
瑞単	秋田県	元 西木村消防団 副団長	江橋 幸 (78)	男	
瑞単	秋田県	元 横手市消防団 分団長	大山 昇 (75)	男	
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 副団長	加賀屋 金雄 (77)	男	
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 副団長	柏谷 勲 (76)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	秋田県	元 大仙市消防団 分団長	河越 昭夫 (73)	男	
瑞単	秋田県	元 角館町消防団 分団長	草 勇豊 (85)	男	
瑞単	秋田県	元 雄和町消防団 副団長	酒井 善重郎 (75)	男	
瑞単	秋田県	元 大内町消防団 副団長	佐々木 武二 (74)	男	
瑞単	秋田県	元 大仙市消防団 副団長	佐藤 弘一 (74)	男	
瑞単	秋田県	元 平鹿町消防団 団長	佐藤 義昭 (71)	男	
瑞単	秋田県	元 羽後町消防団 分団長	菅野 辰男 (75)	男	
瑞単	秋田県	元 雄勝町消防団 副団長	鈴木 清春 (83)	男	
瑞単	秋田県	元 湯沢市消防団 副団長	高橋 正 (75)	男	
瑞単	秋田県	元 阿仁町消防団 分団長	西根 欽一 (78)	男	
瑞単	秋田県	元 河辺町消防団 副団長	松田 信一 (76)	男	
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 副団長	水澤 勤 (79)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	山形県	元 上山市消防団 団長	笠原 正義 (71)	男	
瑞単	山形県	元 鶴岡市消防団 団長	五十嵐 正谷 (65)	男	
瑞単	山形県	元 酒田市八幡消防団 団長	池田 義晴 (65)	男	
瑞単	山形県	元 大蔵村消防団 分団長	柿崎 操策 (74)	男	
瑞単	山形県	元 戸沢村消防団 副団長	佐藤 栄一 (65)	男	
瑞単	山形県	元 鶴岡市消防団 副団長	佐藤 信徹 (65)	男	
瑞単	山形県	元 酒田市消防団 分団長	佐藤 正壽 (75)	男	
瑞単	山形県	元 遊佐町消防団 分団長	富樫 忠博 (67)	男	
瑞単	山形県	元 小国町消防団 団長	東 正明 (77)	男	
瑞双	福島県	元 石川町消防団 団長	荒木 強 (76)	男	
瑞双	福島県	元 南相馬市消防団 団長	佐藤 光孝 (76)	男	
瑞双	福島県	元 南会津町消防団 団長	野中 新三 (67)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	福島県	元 天來村消防団 団長	森 義恭 (73)	男	
瑞単	福島県	元 山部町消防団 分団長	五十嵐 實 (76)	男	
瑞単	福島県	元 いわき市消防団 分団長	猪狩 悦朗 (66)	男	
瑞単	福島県	元 国見町消防団 分団長	齋藤 修一 (78)	男	
瑞単	福島県	元 福島市消防団 分団長	齋藤 壮司 (82)	男	
瑞単	福島県	元 郡山市消防団 副団長	佐藤 信義 (65)	男	
瑞単	福島県	元 岩代町消防団 団長	佐藤 洋一 (70)	男	
瑞単	福島県	元 福島市消防団 分団長	穴戸 周司 (75)	男	
瑞単	福島県	元 福島市消防団 分団長	島貫 堅吉 (79)	男	
瑞単	福島県	元 西会津町消防団 分団長	鈴木 弘 (74)	男	
瑞単	福島県	元 いわき市消防団 分団長	鈴木 彦彦 (77)	男	
瑞単	福島県	元 柳津町消防団 分団長	長谷川 弘衛 (79)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	福島県	元 郡山市消防団 副団長	吉田 清治 (65)	男	
瑞単	福島県	元 いわき市消防団 分団長	吉野 良一 (67)	男	
瑞単	福島県	元 会津若松市消防団 分団長	渡部 静男 (78)	男	
瑞双	茨城県	元 小美玉市消防団 団長	長島 正文 (72)	男	
瑞単	茨城県	元 日立市消防団 分団長	青山 昇 (83)	男	
瑞単	茨城県	元 内原町消防団 副団長	浅野 芳策 (73)	男	
瑞単	茨城県	元 つくば市消防団 副団長	飯田 茂 (75)	男	
瑞単	茨城県	元 美野里町消防団 分団長	井上 時之助 (87)	男	
瑞単	茨城県	元 守谷市消防団 副団長	岩田 三郎 (68)	男	
瑞単	茨城県	元 水海道市消防団 分団長	大鹿 真一 (82)	男	
瑞単	茨城県	元 常陸大宮市消防団 副団長	大森 正一 (68)	男	
瑞単	茨城県	元 城里町消防団 団長	垣澤 光三 (74)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	茨城県	元 結城市消防団 副団長	清水 武夫 (72)	男	
瑞単	茨城県	元 牛久市消防団 副団長	瑞野 勝 (70)	男	
瑞双	栃木県	元 日光市日光消防団 団長	藤田 英夫 (77)	男	
瑞単	栃木県	元 鹿沼市消防団 団長	天海 一美 (67)	男	
瑞単	栃木県	元 宇都宮市消防団 副団長	荒井 善郎 (78)	男	
瑞単	栃木県	元 小山市消防団 副分団長	松本 宇二 (79)	男	
瑞単	栃木県	元 藤原町消防団 副分団長	八木沢 忠佐 (82)	男	
瑞単	栃木県	元 佐野市消防団 副団長	吉田 久夫 (67)	男	
瑞双	群馬県	元 安中市消防団 団長	町田 純一 (65)	男	
瑞単	群馬県	元 妙義町消防団 副団長	島田 長治 (69)	男	
瑞単	群馬県	元 碓氷消防団 団長	下谷 宇一 (66)	男	
瑞単	群馬県	元 館林地区消防組合 消防団邑楽消防団 団長	寺崎 利治 (64)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	群馬県	元 吉井町消防団 団長	吉山 實 (73)	男	
瑞小	埼玉県	元 上尾市 消防正監	大川原 富夫 (71)	男	
瑞小	埼玉県	元 所沢市 消防正監	坂本 龍司 (72)	男	
瑞双	埼玉県	元 鴻巣市吹上消防団 団長	澤本 正彦 (70)	男	
瑞単	埼玉県	元 久喜市消防団 分団長	荒井 良和 (70)	男	
瑞単	埼玉県	元 鳩ヶ谷市消防団 分団長	池上 雄次 (72)	男	
瑞単	埼玉県	元 松伏町消防団 副団長	今井 真 (68)	男	
瑞単	埼玉県	元 大宮市消防団 分団長	小島 敏昭 (82)	男	
瑞単	埼玉県	元 川口市消防団 分団長	小林 章 (79)	男	
瑞単	埼玉県	元 さいたま市消防団 副分団長	坂部 敬司 (81)	男	
瑞単	埼玉県	元 さいたま市消防団 分団長	田口 静彦 (75)	男	
瑞単	埼玉県	元 戸田市消防団 団長	林 魂明 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	埼玉県	元 越谷市消防団 分団長	深井 嘉寛 (73)	男	
瑞単	埼玉県	元 熊谷地区消防組合 熊谷消防団 分団長	福島 延雄 (82)	男	
瑞小	千葉県	元 市川市 消防正監	石橋 秀雄 (71)	男	
瑞小	千葉県	元 安房郡市広城市町 村農事務組合 消防正監	大野 孟 (70)	男	
瑞双	千葉県	元 印西市消防団 団長	岩井 一郎 (70)	男	
瑞双	千葉県	元 柏市 消防正監	宇佐見 義雄 (72)	男	
瑞単	千葉県	元 芝山町消防団 団長	小川 重安 (66)	男	
瑞単	千葉県	元 白井市消防団 団長	小金谷 恒久 (65)	男	
瑞単	千葉県	元 飯岡町消防団 団長	下 塾 實 (65)	男	
瑞単	千葉県	元 船橋市消防団 分団長	鈴木 正己 (79)	男	
瑞単	千葉県	元 君津市消防団 団長	島井 正俊 (66)	男	
瑞単	千葉県	元 山武市消防団 副団長	仲村 司 (67)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	千葉県	元 千葉市消防団 分団長	西田 謙一 (84)	男	
瑞単	千葉県	元 九十九里町消防団 副団長	丸山 喜一 (65)	男	
瑞中	東京都	元 東京消防庁 消防總監	白谷 祐二 (70)	男	
瑞小	東京都	元 東京消防庁 消防司監	堤 十九夫 (70)	男	
瑞双	東京都	元 杉並消防団 団長	高野 征男 (71)	男	
瑞双	東京都	元 板橋消防団 団長	田中 盛男 (70)	男	
瑞双	東京都	元 本所消防団 団長	見木 良夫 (72)	男	
瑞単	東京都	元 葛西消防団 副団長	安達 進 (73)	男	
瑞単	東京都	元 金町消防団 分団長	石堂 忍 (77)	男	
瑞単	東京都	元 世田谷消防団 副団長	梅澤 幹司 (75)	男	
瑞単	東京都	元 目黒消防団 副団長	追川 幸之助 (73)	男	
瑞単	東京都	元 本郷消防団 副団長	岡部 和夫 (84)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	東京都	元 尾久消防団 副団長	掛貝 秀雄 (74)	男	
瑞単	東京都	元 日野市消防団 団長	駒沢 藤一 (70)	男	
瑞単	東京都	元 本田消防団 副団長	齋藤 靖 (70)	男	
瑞単	東京都	元 城東消防団 副団長	佐々木 次男 (73)	男	
瑞単	東京都	元 新宿消防団 副団長	島田 昇 (72)	男	
瑞単	東京都	元 品川消防団 団長	杉山 一男 (73)	男	
瑞単	東京都	元 中野消防団 団長	鈴木 進 (65)	男	
瑞単	東京都	元 西新井消防団 分団長	鈴木 次男 (80)	男	
瑞単	東京都	元 上野消防団 団長	鈴木 宏宥 (75)	男	
瑞単	東京都	元 渋谷消防団 副団長	藏 訪 貞 (73)	男	
瑞単	東京都	元 赤羽消防団 副団長	那須 晴朗 (76)	男	
瑞単	東京都	元 四谷消防団 団長	西澤 建治 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞 単	東京都	元 高輪消防団 副団長	松本 積 男 (70)	男	
瑞 単	東京都	元 志村消防団 副団長	丸田 武 (75)	男	
瑞 単	東京都	元 蒲田消防団 副団長	宮崎 喜明 (67)	男	
瑞 単	東京都	元 深川消防団 副団長	山下 勝義 (71)	男	
瑞 単	東京都	元 千住消防団 副団長	渡辺 克平 (72)	男	
瑞 単	東京都	元 町田市消防団 団長	渡辺 正明 (72)	男	
瑞 小	神奈川県	元 茅ヶ崎市 消防正監	鈴木 善明 (70)	男	
瑞 双	神奈川県	元 横浜市保土ヶ谷消防団 団長	大島 英治 (72)	男	
瑞 双	神奈川県	元 川崎市宮前消防団 団長	永井 輝政 (70)	男	
瑞 双	神奈川県	元 茅ヶ崎市消防団 団長	廣瀬 康男 (75)	男	
瑞 単	神奈川県	元 横須賀市消防団 副団長	青木 一男 (72)	男	
瑞 単	神奈川県	元 川崎市高津消防団 副団長	秋元 照雄 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞 単	神奈川県	元 逗子市消防団 分団長	石渡 靖之 (73)	男	
瑞 単	神奈川県	元 川崎市幸消防団 分団長	金子 幸三郎 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 川崎市中原消防団 副団長	川野 正久 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 平塚市消防団 分団長	佐草 康政 (75)	男	
瑞 単	神奈川県	元 津久井町消防団 団長	佐藤 勝男 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 川崎市川崎消防団 分団長	相馬 俊男 (76)	男	
瑞 単	神奈川県	元 横浜市内西消防団 団長	田澤 博彦 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 三浦市消防団 副団長	藤井 正男 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 藤沢市消防団 分団長	吉田 勝政 (70)	男	
瑞 単	神奈川県	元 鎌倉市消防団 団長	和田 豊作 (73)	男	
瑞 双	新潟県	元 寺泊町消防団 団長	長谷川 秀逸 (70)	男	
瑞 双	新潟県	元 刈羽村消防団 団長	星野 和道 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞 双	新潟県	元 南佐渡消防事務組合羽茂町消防団 団長	本間 武雄 (73)	男	
瑞 双	新潟県	元 上越市消防団 副団長	渡辺 一夫 (66)	男	
瑞 単	新潟県	元 糸魚川市能生消防団 副分団長	大貫 高治 (74)	男	
瑞 単	新潟県	元 十日町地域広域事務組合津南町消防団 副団長	大見 幸雄 (66)	男	
瑞 単	新潟県	元 加茂市消防団 分団長	各務 九二一 (74)	男	
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 副団長	嵐間 修一 (67)	男	
瑞 単	新潟県	元 黒川村消防団 団長	坂上 徳三郎 (65)	男	
瑞 単	新潟県	元 阿賀野市消防団 副団長	曾我 健藏 (66)	男	
瑞 単	新潟県	元 大島村消防団 団長	武江 新一 (65)	男	
瑞 単	新潟県	元 三条市消防団 副団長	田邊 榮助 (73)	男	
瑞 単	新潟県	元 新潟市東消防団 分団長	田邊 勝雄 (75)	男	
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 副団長	橋本 昇 (65)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞 単	新潟県	元 上越市消防団 副団長	古川 喜代治 (68)	男	
瑞 単	新潟県	元 新発田市消防団 団長	増子 國男 (72)	男	
瑞 単	新潟県	元 津川町消防団 分団長	渡部 悦夫 (73)	男	
瑞 双	富山県	元 舟橋村消防団 団長	中田 文夫 (72)	男	
瑞 双	富山県	元 富山市消防団 副団長	名徳 隆弘 (71)	男	
瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	櫻 毅義 (70)	男	
瑞 単	富山県	元 高岡市消防団 副団長	御依屋 昭良 (67)	男	
瑞 単	富山県	元 福岡町消防団 分団長	梶 浦利雄 (86)	男	
瑞 単	富山県	元 魚津市消防団 分団長	紙 忠 (74)	男	
瑞 単	富山県	元 射水市消防団 分団長	黒川 義雄 (75)	男	
瑞 単	富山県	元 水見市消防団 副団長	坂本 正治 (66)	男	
瑞 単	富山県	元 高岡市高岡消防団 分団長	澤田 幸雄 (77)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	富山県	元 大門町消防団 分団長	元 澤橋清志(82)	男	
瑞単	富山県	元 立山町消防団 副団長	元 福岡喜薫(74)	男	
瑞単	富山県	元 婦中町消防団 分団長	元 山崎正之(83)	男	
瑞単	富山県	元 小矢部市消防団 分団長	元 山下忠(77)	男	
瑞双	石川県	元 白山市南消防団 団長	元 竹内茂男(71)	男	
瑞単	石川県	元 能登町消防団 分団長	元 井上清(75)	男	
瑞単	石川県	元 内灘町消防団 団長	元 川辺藤一(70)	男	
瑞単	石川県	元 七尾鹿島広域圏事 務組合第1消防団 副団長	元 長浦健一(76)	男	
瑞単	石川県	元 珠洲市消防団 分団長	元 宇場武(73)	男	
瑞単	石川県	元 小松市消防団 分団長	元 宮下年夫(74)	男	
瑞単	石川県	元 金沢市第一消防団 副団長	元 宮田勉(71)	男	
瑞単	石川県	元 門前町消防団 分団長	元 吉田貢(76)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	福井県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 団長	元 上塚憲一(68)	男	
瑞単	福井県	元 勝山市消防団 分団長	元 大山口喜平(80)	男	
瑞単	福井県	元 南越消防組合武生 消防団 分団長	元 鎌谷慶晴(76)	男	
瑞単	福井県	元 福井市消防団 団長	元 北嶋正輝(74)	男	
瑞単	福井県	元 大野地区消防組合 大野消防団 分団長	元 藤田健一(76)	男	
瑞双	山梨県	元 敷島町消防団 団長	元 河野勝彦(71)	男	
瑞単	山梨県	元 山梨市消防団 団長	元 萩原雄司(62)	男	
瑞単	山梨県	元 秋山村消防団 副団長	元 杉本正文(66)	男	
瑞単	長野県	元 塩尻市消防団 団長	元 浅田貞一(67)	男	
瑞単	長野県	元 松本市消防団 団長	元 牛山忠(67)	男	
瑞単	長野県	元 長野市消防団 団長	元 羽藤公夫(64)	男	
瑞双	岐阜県	元 多治見市消防団 団長	元 伊藤茂(65)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	岐阜県	元 可茂消防事務組合 消防正監	元 大塚森夫(70)	男	
瑞双	岐阜県	元 郡上市消防団 副団長	元 小坂與平(67)	男	
瑞双	岐阜県	元 白鳥町消防団 団長	元 三島耕星(70)	男	
瑞単	岐阜県	元 各務原市消防団 副団長	元 伊神保司(64)	男	
瑞単	岐阜県	元 養老町消防団 分団長	元 大橋清春(67)	男	
瑞単	岐阜県	元 高山市消防団 副団長	元 尾崎敏幸(64)	男	
瑞単	岐阜県	元 岐阜市中消防団 分団長	元 笠原宏之(74)	男	
瑞単	岐阜県	元 大和町消防団 副団長	元 森克郎(64)	男	
瑞双	静岡県	元 清水町消防団 団長	元 川合敏彦(70)	男	
瑞単	静岡県	元 富士市消防団 分団長	元 秋山芳弘(68)	男	
瑞単	静岡県	元 大井町消防団 団長	元 池谷晃司(69)	男	
瑞単	静岡県	元 静岡市消防団 副団長	元 池田治雄(67)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	静岡県	元 三島市消防団 団長	元 内野哲雄(65)	男	
瑞単	静岡県	元 松崎町消防団 団長	元 中村一夫(74)	男	
瑞単	静岡県	元 島田市消防団 副団長	元 八木光一(63)	男	
瑞単	静岡県	元 沼津市消防団 団長	元 山口純一(68)	男	
瑞小	愛知県	元 名古屋市 消防正監	元 浅井昌治(76)	男	
瑞双	愛知県	元 稲沢市消防団 団長	元 石黒幸吉(66)	男	
瑞双	愛知県	元 名古屋市穂波消防 団 団長	元 今津雅資(76)	男	
瑞双	愛知県	元 北名古屋市消防団 団長	元 中山金一(66)	男	
瑞双	愛知県	元 豊橋市 消防正監	元 夏自孝義(70)	男	
瑞単	愛知県	元 名古屋市北一社消 防団 団長	元 天野亘一(75)	男	
瑞単	愛知県	元 岡崎市六名消防団 団長	元 伊藤公一(66)	男	
瑞単	愛知県	元 名古屋市野田消防 団 団長	元 小川和男(75)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	愛知県	元名古屋城北消防団 団長	長瀬英雄(73)	男	
瑞単	愛知県	元名古屋市楠消防団 団長	森川英治(76)	男	
瑞双	三重県	元熊野市消防団 団長	岩上日出男(76)	男	
瑞双	三重県	元東員町消防団 団長	権村政良(75)	男	
瑞双	三重県	元嬉野町消防団 団長	野口正一(71)	男	
瑞双	三重県	元四日市市楠消防団 団長	橋本巳貴也(73)	男	
瑞双	三重県	元津市消防団 副団長	原田日出夫(74)	男	
瑞単	三重県	元伊勢市消防団 副団長	岩崎進(73)	男	
瑞単	三重県	元桑名市消防団 副団長	小川勝昭(72)	男	
瑞単	三重県	元大台町消防団 副団長	小塚悟(66)	男	
瑞単	三重県	元尾鷲市消防団 分団長	西岡健(74)	男	
瑞双	滋賀県	元湖南市消防団 団長	青木次郎(66)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	滋賀県	元大津市消防団 副団長	岩波義男(80)	男	
瑞単	滋賀県	元マキノ町消防団 副団長	辻久一(80)	男	
瑞単	滋賀県	元野洲市消防団 団長	山藤肇(76)	男	
瑞小	京都府	元京都市 消防正監	今村昭昭(70)	男	
瑞小	京都府	元京都市 消防正監	萬治亮三(70)	男	
瑞単	京都府	元京都市南消防団 副団長	石津敦彦(73)	男	
瑞単	京都府	元宇治市消防団 副団長	上尾博(64)	男	
瑞単	京都府	元京都市山科消防団 副団長	岡本満(70)	男	
瑞単	京都府	元京都市左京消防団 分団長	小倉享(80)	男	
瑞単	京都府	元舞鶴市中山消防団 団長	嶋貫政良(78)	男	
瑞単	京都府	元京都市左京消防団 分団長	原西良夫(87)	男	
瑞単	京都府	元舞鶴市岡田下消防団 団長	巖下岩夫(86)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	京都府	元京都市中京消防団 分団長	村井勇(76)	男	
瑞単	京都府	元舞鶴市岡田下消防団 団長	村上一郎(78)	男	
瑞小	大阪府	元大阪市 消防正監	大北雅史(70)	男	
瑞小	大阪府	元大阪市 消防正監	高垣新平(70)	男	
瑞小	大阪府	元東大阪市 消防正監	竹本康男(70)	男	
瑞双	大阪府	元田尻町消防団 団長	熊谷肇(72)	男	
瑞単	大阪府	元松原市消防団 分団長	植村敏男(73)	男	
瑞単	大阪府	元泉南市消防団 団長	戎野由幸(64)	男	
瑞単	大阪府	元枚方市消防団 分団長	倉田勉(74)	男	
瑞単	大阪府	元吹田市消防団 副団長	小山松吉(73)	男	
瑞単	大阪府	元摂津市消防団 団長	榑下安之(68)	男	
瑞単	大阪府	元羽曳野市消防団 副団長	松本勝(76)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	大阪府	元大阪狭山市消防団 分団長	森本俊明(69)	男	
瑞単	大阪府	元阪南市消防団 団長	安田吉輝(64)	男	
瑞単	大阪府	元高槻市消防団 分団長	山本正雄(72)	男	
瑞小	兵庫県	元神戸市 消防正監	辻井章(71)	男	
瑞双	兵庫県	元豊岡市日高消防団 団長	岡健美(64)	男	
瑞双	兵庫県	元三田市消防団 分団長	馬場俊彦(70)	男	
瑞単	兵庫県	元赤穂市消防団 副団長	井筒久治(64)	男	
瑞単	兵庫県	元淡路市消防団 副団長	伊藤建英(64)	男	
瑞単	兵庫県	元川西市消防団 団長	大西信昭(64)	男	
瑞単	兵庫県	元西宮市消防団 分団長	岡本久一(68)	男	
瑞単	兵庫県	元姫路市飾磨消防団 分団長	肥塚好隆(67)	男	
瑞単	兵庫県	元神戸市西消防団 副団長	瀧谷富喜男(67)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	兵庫県	元 高砂市消防団 分団長	高 安 剛 輝 (64)	男	
瑞単	兵庫県	元 新温泉町消防団 副団長	田 中 薫 (65)	男	
瑞単	兵庫県	元 上部町消防団 副団長	段 上 裕 幸 (64)	男	
瑞単	兵庫県	元 尼崎市消防団 分団長	江 那 博 (65)	男	
瑞単	兵庫県	元 姫路市姫路西消防団 分団長	寺 内 正 義 (70)	男	
瑞単	兵庫県	元 加古川市消防団 分団長	十 倉 功 (65)	男	
瑞単	兵庫県	元 三木市消防団 副団長	中 口 勝 (64)	男	
瑞単	兵庫県	元 神戸市北消防団 副団長	藤 井 弘 (67)	男	
瑞単	兵庫県	元 養父市消防団 副団長	藤 原 茂 (68)	男	
瑞単	兵庫県	元 明石市消防団 分団長	藤 原 義 信 (64)	男	
瑞単	兵庫県	元 豊岡市豊岡消防団 副団長	宮 下 晃 (71)	男	
瑞双	奈良県	元 曾根村消防団 団長	磯 野 恵 造 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	奈良県	元 宇陀市菟田野消防団 副団長	白 毛 良 夫 (81)	男	
瑞双	奈良県	元 大和郡山市消防団 団長	田 中 武 義 (73)	男	
瑞双	奈良県	元 上北山村消防団 団長	玉 岡 忠 夫 (70)	男	
瑞双	奈良県	元 広陵町消防団 団長	山 村 森 夫 (72)	男	
瑞単	奈良県	元 安堵町消防団 分団長	井 上 勝 美 (71)	男	
瑞単	奈良県	元 十津川村消防団 分団長	大 谷 良 廣 (80)	男	
瑞単	奈良県	元 王寺町消防団 団長	嶋 内 晴 三 (66)	男	
瑞単	奈良県	元 御所市消防団 分団長	竹 川 健 一 (71)	男	
瑞単	奈良県	元 下市町消防団 副団長	水 本 雅 康 (66)	男	
瑞単	奈良県	元 五條市消防団 分団長	山 本 正 美 (83)	男	
瑞双	和歌山県	元 日高町消防団 団長	稲 葉 伸 秀 (71)	男	
瑞双	和歌山県	元 日高川町消防団 団長	瀬 口 俊 和 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	和歌山県	元 有田川町消防団 団長	谷 豊 一 (68)	男	
瑞双	和歌山県	元 すさみ町消防団 団長	高 水 弘 (77)	男	
瑞双	和歌山県	元 広川町消防団 団長	星 畑 照 二 (73)	男	
瑞単	和歌山県	元 龍神村消防団 副団長	五 味 貢 (79)	男	
瑞単	和歌山県	元 古座川町消防団 副団長	新 屋 了 (72)	男	
瑞単	和歌山県	元 那智勝浦町消防団 副分団長	箱 棟 健 一 (82)	男	
瑞単	和歌山県	元 橋本市消防団 団長	森 脇 克 治 (75)	男	
瑞小	鳥取県	元 西部広域行政管理 総合 消防正監	廣 谷 耕 史 (70)	男	
瑞単	鳥取県	元 西伯町消防団 副団長	遠 藤 勤 (73)	男	
瑞単	鳥取県	元 境港市消防団 分団長	大 崎 秀 則 (75)	男	
瑞単	鳥取県	元 大山町消防団 団長	齊 尾 清 (65)	男	
瑞双	島根県	元 海士町消防団 団長	金 谷 謙 造 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	島根県	元 雲南市消防団 副団長	高 野 豊 (65)	男	
瑞双	島根県	元 大田市消防団 副団長	中 西 義 昭 (73)	男	
瑞双	島根県	元 安来市消防団 団長	細 田 嘉 幸 (68)	男	
瑞双	島根県	元 出雲市消防団 団長	三 成 重 徳 (69)	男	
瑞単	島根県	元 浜田市消防団 副団長	梅 谷 照 男 (70)	男	
瑞単	島根県	元 益田市消防団 副団長	佐々木 義 美 (71)	男	
瑞単	島根県	元 江津市消防団 分団長	安 田 忠 徳 (75)	男	
瑞双	岡山県	元 備前市消防団 団長	江 口 一 男 (68)	男	
瑞双	岡山県	元 鴨方町消防団 団長	北 村 正 文 (70)	男	
瑞双	岡山県	元 鏡野町消防団 団長	新 免 義 人 (70)	男	
瑞双	岡山県	元 富村消防団 団長	山 崎 博 嗣 (74)	男	
瑞単	岡山県	元 久米町消防団 団長	荒 砂 敏 明 (69)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	岡山県	元 岡山市消防団 分団長	石原 精 (68)	男	
瑞単	岡山県	元 奥津町消防団 団長	梅本 正三 (65)	男	
瑞単	岡山県	元 笠岡市消防団 分団長	加藤 憲郎 (69)	男	
瑞単	岡山県	元 瀬戸内市消防団 副団長	久山 宗夫 (65)	男	
瑞単	岡山県	元 浅口市消防団 副団長	河本 賢次 (67)	男	
瑞単	岡山県	元 岡山市消防団 分団長	近藤 浩夫 (69)	男	
瑞単	岡山県	元 山陽町消防団 団長	血井 賢三 (65)	男	
瑞単	岡山県	元 岡山市消防団 副団長	三二一 正 (66)	男	
瑞単	岡山県	元 真庭市美甘消防団 団長	中山 久 (66)	男	
瑞単	岡山県	元 真庭市消防団 副団長	初岡 俊教 (66)	男	
瑞単	岡山県	元 新見市消防団 分団長	毛利 忠雄 (70)	男	
瑞単	岡山県	元 赤磐市消防団 副団長	森本 孝 (65)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞小	広島県	元 広島市 消防正監	竹中 敏章 (70)	男	
瑞小	広島県	元 広島市 消防正監	中上 博二 (70)	男	
瑞双	広島県	元 府中市消防団 団長	大森 勝勇 (77)	男	
瑞単	広島県	元 尾道市消防団 分団長	大森 隆司 (81)	男	
瑞単	広島県	元 大野町消防団 団長	岡林 光義 (71)	男	
瑞単	広島県	元 三原市消防団 分団長	小田 豊 (82)	男	
瑞単	広島県	元 江田島市消防団 副団長	金川 勝彦 (71)	男	
瑞単	広島県	元 黒瀬町消防団 分団長	兼光 昭吉 (74)	男	
瑞単	広島県	元 安芸太田町消防団 部長	川本 勝美 (82)	男	
瑞単	広島県	元 呉市消防団 副団長	葛原 友則 (71)	男	
瑞単	広島県	元 美土里町消防団 分団長	後藤 春繁 (74)	男	
瑞単	広島県	元 広島市安佐北消防団 分団長	下谷 勝壯 (76)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	広島県	元 広島市南消防団 分団長	新出 富夫 (74)	男	
瑞単	広島県	元 呉市消防団 分団長	瀧口 章 (85)	男	
瑞単	広島県	元 広島市佐伯消防団 分団長	武田 昭伸 (72)	男	
瑞単	広島県	元 三原市消防団 分団長	多田 勝 (70)	男	
瑞単	広島県	元 呉市消防団 分団長	土手 勇三 (76)	男	
瑞単	広島県	元 広島市安芸消防団 分団長	仲武 己 (84)	男	
瑞単	広島県	元 大竹市消防団 分団長	福永 一彦 (72)	男	
瑞双	山口県	元 山口市消防団 団長	大隅 博志 (75)	男	
瑞双	山口県	元 周南市消防団 団長	河井 日出夫 (68)	男	
瑞単	山口県	元 山陽小野田市消防団 副団長	有田 次男 (74)	男	
瑞単	山口県	元 美祿市消防団 分団長	伊川 澄男 (71)	男	
瑞単	山口県	元 美祿市消防団 分団長	伊藤 洋司 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	山口県	元 岩国市消防団 副団長	上田 哲雄 (71)	男	
瑞単	山口県	元 宇部市消防団宇部 消防団 分団長	内田 榮治 (76)	男	
瑞単	山口県	元 山陽小野田市消防団 分団長	岡崎 征雄 (75)	男	
瑞単	山口県	元 周防大島町消防団 副団長	金山 定雄 (79)	男	
瑞単	山口県	元 山陽小野田市消防団 副団長	藏本 晴治 (75)	男	
瑞単	山口県	元 大島町消防団 分団長	黒田 清隆 (83)	男	
瑞単	山口県	元 萩市消防団 分団長	左野 忠良 (77)	男	
瑞単	山口県	元 大島町消防団 分団長	田中 洋 (83)	男	
瑞単	山口県	元 阿知須町消防団 分団長	長尾 正一 (80)	男	
瑞単	山口県	元 むつみ村消防団 分団長	中原 博正 (76)	男	
瑞単	山口県	元 萩市消防団 副団長	中村 健治 (75)	男	
瑞単	山口県	元 鹿野町消防団 分団長	藤本 重喜 (75)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	山口県	元 岩国市消防団 副団長	藤本 忠 (70)	男	
瑞単	山口県	元 下松市消防団 分団長	寶迫 和美 (70)	男	
瑞単	徳島県	元 徳島市 消防正監	藤江 俊宏 (70)	男	
瑞単	徳島県	元 上勝町消防団 団長	金石 籍一 (67)	男	
瑞単	徳島県	元 徳島市消防団 分団長	秋田 孝 (64)	男	
瑞単	徳島県	元 牟岐町消防団 分団長	猪谷 功 (71)	男	
瑞単	徳島県	元 阿南市消防団 副団長	片山 敏史 (65)	男	
瑞単	徳島県	元 板野東部消防組合 消防団 副団長	久保 行雄 (64)	男	
瑞単	徳島県	元 阿南市消防団 分団長	清 信一 (65)	男	
瑞単	徳島県	元 牟岐町消防団 副分団長	平岡 清 (64)	男	
瑞単	徳島県	元 徳島市消防団 分団長	榎 重隆 (65)	男	
瑞単	香川県	元 三豊市消防団 副団長	安藤 勤 (73)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	香川県	元 高松市消防団 分団長	石田 嘉弘 (75)	男	
瑞単	香川県	元 東かがわ市消防団 副団長	上村 純治 (67)	男	
瑞単	香川県	元 高松市消防団 分団長	大西 方 (76)	男	
瑞単	香川県	元 綾川町消防団 団長	岡本 薫 (67)	男	
瑞単	香川県	元 小豆島町消防団 副団長	片山 忠明 (67)	男	
瑞単	香川県	元 さぬき市消防団 副団長	川田 敏幸 (71)	男	
瑞単	香川県	元 善通寺市消防団 分団長	佐藤 尚 (82)	男	
瑞単	香川県	元 高瀬町消防団 分団長	白川 光雄 (81)	男	
瑞単	香川県	元 坂出市消防団 副団長	富家 正光 (68)	男	
瑞単	香川県	元 香川町消防団 分団長	阿井 正義 (77)	男	
瑞単	愛媛県	元 今治市消防団 副団長	青野 香織 (66)	男	
瑞単	愛媛県	元 西条市消防団 分団長	石原 信重 (69)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	愛媛県	元 大洲市消防団 副団長	宇都宮 庄次郎 (65)	男	
瑞単	愛媛県	元 松山市消防団 分団長	窪田 敏夫 (67)	男	
瑞単	愛媛県	元 松山市消防団 団長	寺坂 末吉 (66)	男	
瑞単	愛媛県	元 松山市消防団 分団長	内藤 始 (79)	男	
瑞単	愛媛県	元 吉海町消防団 分団長	濱元 泰弘 (78)	男	
瑞単	愛媛県	元 北条市消防団 分団長	東本 保 (74)	男	
瑞単	愛媛県	元 東温市消防団 団長	松本 秀雄 (67)	男	
瑞単	愛媛県	元 内子町消防団 分団長	松中 陳宏 (75)	男	
瑞単	愛媛県	元 四国中央市土居消防団 分団長	眞鍋 廣孝 (65)	男	
瑞単	高知県	元 室戸市消防団 団長	太田 博久 (77)	男	
瑞単	高知県	元 日高村消防団 団長	戸 梶 昭澄 (79)	男	
瑞単	高知県	元 仁淀村消防団 団長	西森 直隆 (70)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	高知県	元 中芸広域連合田野町消防団 団長	濱川 昌博 (70)	男	
瑞単	高知県	元 大月町消防団 分団長	茂井 幸雄 (71)	男	
瑞単	高知県	元 土佐清水市消防団 団長	乾 勲 (71)	男	
瑞単	高知県	元 香南消防組合香我美消防団 団長	川崎 稔 (68)	男	
瑞単	高知県	元 西土佐村消防団 分団長	竹葉 光良 (79)	男	
瑞単	高知県	元 仁淀村消防団 副団長	谷脇 洋輔 (74)	男	
瑞単	高知県	元 越知町消防団 団長	西森 誠勝 (73)	男	
瑞単	高知県	元 高橋消防組合須崎消防団 副分団長	明神 和一 (75)	男	
瑞単	高知県	元 黒潮町消防団 分団長	山中 孝明 (66)	男	
瑞単	高知県	元 高知市消防団 分団長	山本 勇夫 (84)	男	
瑞単	福岡県	元 嘉麻市消防団 団長	大里 健次 (70)	男	
瑞単	福岡県	元 福岡市西消防団 団長	久保 善一 (72)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞双	福岡県	元 福岡市水上消防団 団長	中 田 利 之 (74)	男	
瑞双	福岡県	元 みやこ町消防団 団長	前 田 若 男 (74)	男	
瑞単	福岡県	元 赤村消防団 分団長	秋 元 善 照 (76)	男	
瑞単	福岡県	元 豊前市消防団 副団長	有 吉 貞 利 (73)	男	
瑞単	福岡県	元 直方市消防団 分団長	石 田 康 美 (66)	男	
瑞単	福岡県	元 香春町消防団 副団長	植 田 静 夫 (80)	男	
瑞単	福岡県	元 北九州市小倉北消防団 団長	大 波 誠 治 (73)	男	
瑞単	福岡県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	芹 山 末 文 (79)	男	
瑞単	福岡県	元 北九州市八幡東消防団 団長	佐 方 徳 行 (73)	男	
瑞単	福岡県	元 八女市消防団 団長	坂 田 義 幸 (70)	男	
瑞単	福岡県	元 北九州市小倉北消防団 副団長	田 口 雄 輔 (80)	男	
瑞単	福岡県	元 宮若市消防団 分団長	田 代 昭 夫 (73)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	福岡県	元 田川市消防団 分団長	平 田 成 俊 (68)	男	
瑞単	福岡県	元 山川町消防団 団長	舟 木 敏 夫 (64)	男	
瑞単	福岡県	元 飯塚市消防団 分団長	松 岡 洋 介 (74)	男	
瑞単	福岡県	元 福智町消防団 団長	丸 山 米 太 郎 (69)	男	
瑞単	福岡県	元 中間市消防団 副団長	矢 野 田 實 (72)	男	
瑞単	福岡県	元 みやこ町消防団 副団長	吉 田 敏 俊 (71)	男	
瑞単	福岡県	元 飯塚市消防団 分団長	渡 邊 英 雄 (70)	男	
瑞双	佐賀県	元 武雄市消防団 団長	川 口 正 憲 (64)	男	
瑞双	佐賀県	元 神埼市消防団 団長	久 保 敏 之 (68)	男	
瑞双	佐賀県	元 みやき町消防団 団長	小 池 正 保 (70)	男	
瑞双	佐賀県	元 みやき町消防団 団長	柴 田 武 敏 (68)	男	
瑞双	佐賀県	元 吉野ヶ里町消防団 団長	中 牟 田 満 (72)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	佐賀県	元 鳥栖市消防団 副団長	井 手 本 敏 幸 (71)	男	
瑞単	佐賀県	元 佐賀市久保田町消防団 副団長	室 中 守 夫 (65)	男	
瑞双	長崎県	元 対馬市消防団 副団長	佐 護 哲 也 (69)	男	
瑞単	長崎県	元 三和町消防団 副団長	小 川 久 好 (70)	男	
瑞単	長崎県	元 鷹島町消防団 分団長	金 井 田 強 (79)	男	
瑞単	長崎県	元 有川町消防団 分団長	立 木 太 (80)	男	
瑞単	長崎県	元 西海市消防団 分団長	谷 脇 秀 士 (76)	男	
瑞単	長崎県	元 西海市消防団 副団長	玉 崎 隆 司 (70)	男	
瑞単	長崎県	元 香焼町消防団 分団長	中 ノ 瀬 俊 法 (75)	男	
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 副分団長	野 中 清 隆 (79)	男	
瑞単	長崎県	元 新魚目町消防団 分団長	橋 口 定 市 (71)	男	
瑞単	長崎県	元 諫早市消防団 団長	半 田 三 知 生 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	長崎県	元 玉之浦町消防団 分団長	平 松 勝 利 (75)	男	
瑞単	長崎県	元 奈留町消防団 分団長	吉 桑 保 (75)	男	
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 分団長	山 口 久 慶 (75)	男	
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 分団長	山 下 末 雄 (75)	男	
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 副分団長	弓 削 楊 雄 (76)	男	
瑞小	熊本県	元 天草広域連合 消防正監	勝 田 敦 男 (70)	男	
瑞双	熊本県	元 水俣市消防団 団長	寒 川 正 幸 (65)	男	
瑞単	熊本県	元 八代市消防団 副団長	今 坂 幸 男 (64)	男	
瑞単	熊本県	元 小国町消防団 分団長	栗 秋 高 男 (72)	男	
瑞単	熊本県	元 五木村消防団 分団長	飯 本 一 幸 (71)	男	
瑞単	熊本県	元 高森町消防団 副団長	富 永 刀 男 (64)	男	
瑞単	熊本県	元 中央町消防団 分団長	中 山 英 治 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	熊本県	元 阿蘇市消防団 団長	古澤 志喜男 (65)	男	
瑞単	熊本県	元 熊本市消防団 副団長	村上 文展 (80)	男	
瑞単	熊本県	元 熊本市消防団 分団長	村上 英喜 (73)	男	
瑞単	熊本県	元 熊本市消防団 分団長	若杉 博徳 (73)	男	
瑞単	大分県	元 津久見市消防団 団長	石井 明廣 (65)	男	
瑞単	大分県	元 大分市消防団 副団長	甲斐 操次 (73)	男	
瑞単	大分県	元 竹田市消防団 団長	野 哲 (65)	男	
瑞単	大分県	元 院内町消防団 副団長	川野 正則 (73)	男	
瑞単	大分県	元 杵築市消防団 副団長	河野 幸信 (65)	男	
瑞単	大分県	元 中津江村消防団 副団長	平 利治 (80)	男	
瑞単	大分県	元 中津市消防団 副団長	土井 則之 (68)	男	
瑞単	大分県	元 臼杵市連合消防団 臼杵消防団 分団長	中尾 晴海 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	大分県	元 九重町消防団 団長	仲摩 茂敏 (68)	男	
瑞単	大分県	元 別府市消防団 分団長	西山 重郎 (77)	男	
瑞双	宮崎県	元 門川町消防団 団長	上藤 剛 (73)	男	
瑞双	宮崎県	元 串間市消防団 団長	矢野 貞次 (71)	男	
瑞双	鹿児島県	元 枕崎市消防団 団長	上園 観志 (72)	男	
瑞双	鹿児島県	元 湧水町消防団 団長	橋之口 定 (70)	男	
瑞双	鹿児島県	元 霧島市消防団 団長	福永 健 (72)	男	
瑞双	鹿児島県	元 和泊町消防団 団長	前田 八郎 (70)	男	
瑞双	鹿児島県	元 南さつま市消防団 副団長	巻木 茂雄 (79)	男	
瑞双	鹿児島県	元 日置市消防団 団長	元吉 靖郎 (74)	男	
瑞単	鹿児島県	元 鹿児島市消防団 副団長	有川 昭 (72)	男	
瑞単	鹿児島県	元 鹿屋市消防団 分団長	池畑 國雄 (78)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
瑞単	鹿児島県	元 鹿児島市消防団 副団長	大小田 正徳 (76)	男	
瑞単	鹿児島県	元 薩摩川内市消防団 副団長	園田 芳隆 (68)	男	
瑞単	鹿児島県	元 錦江町消防団 団長	福園 正志 (68)	男	
瑞単	鹿児島県	元 さつま町消防団 副団長	宮脇 純治 (72)	男	
瑞単	鹿児島県	元 蒲生町消防団 団長	本村 松巳 (74)	男	
瑞単	鹿児島県	元 奄美市消防団 団長	安田 和廣 (66)	男	
瑞単	鹿児島県	元 上屋久町消防団 分団長	渡邊 祥太郎 (73)	男	
瑞単	沖縄県	元 石垣市消防団 副団長	鹿川 政夫 (71)	男	
旭双	北海道	現 北海道婦人(女性) 防火クラブ連絡協 議会 会長	本間 ユキ子 (80)	女	



平成27年度春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
藍綬	北海道	現 池北三町行政事務組合本別消防団 団長	遠藤 利之(66)	男		藍綬	福島県	現 須賀川市消防団 団長	宗形 利夫(68)	男	
藍綬	北海道	現 北見地区消防組合 北見消防団 副団長	古厩 敏文(67)	男		藍綬	茨城県	現 常総市消防団 団長	草間 順司(66)	男	
藍綬	青森県	現 むつ市消防団 副団長	濱村 敏貞(65)	男		藍綬	茨城県	現 稲敷市消防団 団長	黒田 功(65)	男	
藍綬	青森県	現 五戸町消防団 副団長	類家 利光(52)	男		藍綬	茨城県	現 下妻市消防団 団長	富田 光一(63)	男	
藍綬	秋田県	現 八郎潟町消防団 分団長	北嶋 透志雄(63)	男		藍綬	茨城県	現 かすみがうら市消防団 団長	藤井 裕一(65)	男	
藍綬	秋田県	現 大滝村消防団 副団長	松橋 稔(57)	男		藍綬	栃木県	現 佐野市消防団 副団長	小島 稔(60)	男	
紅綬	山形県	人命救助者	佐藤 拓(46)	男		藍綬	栃木県	現 佐野市消防団 副団長	佐野 常次(67)	男	
藍綬	山形県	現 鶴岡市消防団 副団長	遠藤 勇(55)	男		藍綬	群馬県	現 館林地区消防組合 消防団邑楽消防団 団長	関口 一弘(51)	男	
藍綬	山形県	現 山辺町消防団 団長	吉田 勘司(59)	男		藍綬	群馬県	現 館林地区消防組合 消防団板倉消防団 団長	森田 孝市(55)	男	
藍綬	福島県	現 三春町消防団 団長	石井 公義(63)	男		藍綬	千葉県	現 船橋市消防団 副団長	井戸 知一(52)	男	
藍綬	福島県	現 磐梯町消防団 団長	金田 孝(66)	男		藍綬	千葉県	現 成田市消防団 副団長	岩立 正一郎(58)	男	
藍綬	福島県	現 南相馬市消防団 副団長	酒井 利彦(67)	男		藍綬	千葉県	現 千葉市消防団 副団長	大木 智弘(60)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
藍綬	千葉県	現 柏市消防団 副団長	染谷 勝男(58)	男		藍綬	東京都	現 渋谷消防団 副団長	福住 照男(67)	男	
藍綬	東京都	現 杉並消防団 副団長	井口 雅和(68)	男		藍綬	神奈川県	現 横浜市戸塚消防団 分団長	金子 富康(64)	男	
藍綬	東京都	現 八王子市消防団 副団長	池田 和年(63)	男		藍綬	神奈川県	現 川崎市幸消防団 副団長	佐伯 正夫(79)	男	
藍綬	東京都	現 王子消防団 副団長	内田 勲夫(73)	男		藍綬	神奈川県	現 横浜市伊勢佐木消防団 副団長	水田 二郎(64)	男	
藍綬	東京都	現 板橋消防団 副団長	岡田 利彦(69)	男		藍綬	神奈川県	現 横浜市金沢消防団 副団長	平野 龍雄(68)	男	
藍綬	東京都	現 西新井消防団 副団長	熊谷 哲也(71)	男		藍綬	神奈川県	現 川崎市中原消防団 副団長	三上 能樹(62)	男	
藍綬	東京都	現 金町消防団 副団長	黒白 常光(61)	男		藍綬	神奈川県	現 横須賀市消防団 分団長	吉田 孝志(71)	男	
藍綬	東京都	現 足立消防団 分団長	小久保 道明(71)	男		藍綬	石川県	現 輪島市消防団 分団長	上田 一二(67)	男	
藍綬	東京都	現 清瀬市消防団 団長	小寺 正明(56)	男		藍綬	石川県	現 七尾市第1消防団 副団長	川口 竹弘(68)	男	
藍綬	東京都	現 赤坂消防団 副団長	櫻庭 憲嗣(67)	男		藍綬	福井県	現 嶺北消防組合板井消防団 副団長	伊藤 春男(66)	男	
藍綬	東京都	現 池袋消防団 副団長	清水 正博(63)	男		藍綬	山梨県	現 甲府市消防団 分団長	岩下 英二(55)	男	
藍綬	東京都	現 荻窪消防団 副団長	桑 常男(67)	男		藍綬	山梨県	現 甲府市消防団 副団長	山田 弘之(59)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
藍綬	岐阜県	現 岐阜市中消防団 団長	井 深 政 良 (64)	男	
藍綬	岐阜県	現 各務原市消防団 団長	権 村 晃 雄 (55)	男	
藍綬	岐阜県	現 下呂市消防団 団長	大 森 章 弘 (55)	男	
藍綬	岐阜県	現 岐阜市南消防団 団長	小野木 卓 夫 (71)	男	
藍綬	岐阜県	現 七宗町消防団 団長	田 口 秀 道 (63)	男	
藍綬	岐阜県	現 飛騨市消防団 副団長	柚 原 孝 志 (62)	男	
藍綬	静岡県	現 浜松市消防団 副団長	小 野 敏 彦 (59)	男	
藍綬	愛知県	現 名古屋市弥富消防団 団長	石 原 優 樹 (71)	男	
藍綬	愛知県	現 半田市消防団 団長	久 野 孝 学 (61)	男	
藍綬	愛知県	現 名古屋市豊田消防団 団長	森 光 雄 (77)	男	
藍綬	三重県	現 四日市市消防団 分団長	市 川 増 生 (71)	男	
藍綬	三重県	現 伊勢市消防団 団長	上之郷 宏 也 (68)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
藍綬	滋賀県	現 彦根市消防団 副団長	大 菅 光 雄 (68)	男	
藍綬	滋賀県	現 草津市消防団 団長	杉 江 肇 (72)	男	
藍綬	京都府	現 井手町消防団 分団長	鎌 田 隆 宏 (50)	男	
藍綬	大阪府	現 松原市消防団 分団長	井 上 明 男 (66)	男	
藍綬	大阪府	現 太子町消防団 副団長	植 村 俊 和 (55)	男	
藍綬	大阪府	現 河南町消防団 分団長	奥 野 保 夫 (65)	男	
藍綬	大阪府	現 富田林市消防団 副団長	尾 崎 弘 弘 (71)	男	
藍綬	大阪府	現 豊中市消防団 団長	田 中 照 浩 (58)	男	
藍綬	大阪府	現 高槻市消防団 副団長	平 野 英 明 (66)	男	
藍綬	奈良県	現 王寺町消防団 団長	西 谷 浩 浩 (63)	男	
藍綬	奈良県	現 御所市消防団 副団長	花 岡 俊 行 (66)	男	
藍綬	岡山県	現 備前市消防団 副団長	永 畑 忠 幸 (55)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
藍綬	福岡県	現 田川市消防団 副団長	佐 野 誠 二 (63)	男	
藍綬	福岡県	現 久留米市消防団 副団長	角 正 司 (63)	男	
藍綬	福岡県	現 小竹町消防団 団長	宮 野 政 義 (70)	男	
藍綬	福岡県	現 芦屋町消防団 副団長	吉 田 勝 美 (63)	男	
藍綬	熊本県	現 熊本市消防団 副団長	田 中 一 秀 (55)	男	
藍綬	大分県	現 由布市消防団 副団長	坂 本 成 一 (59)	男	
藍綬	宮崎県	現 宮崎市消防団 分団長	飯 塚 貞 夫 (64)	男	
藍綬	宮崎県	現 高原町消防団 副団長	中 嶋 利 彦 (63)	男	
藍綬	宮崎県	元 都城市山之口消防団 団長	兼 肇 照 見 (64)	男	
藍綬	鹿児島県	現 薩摩川内市消防団 副団長	東 俊 史 (65)	男	
藍綬	鹿児島県	現 薩摩川内市消防団 団長	薬 師 寺 正 司 (65)	男	
黄綬	広島県	現 備前市消防団 取締役会長	今 本 武 (71)	男	

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	備考
黄綬	福井県	現 川口電気㈱ 取締役会長	川 口 光 夫 (75)	男	
黄綬	鳥取県	現 鳥取防災㈱ 代表取締役	吉 村 隆 彦 (63)	男	
藍綬	島根県	元 島根県消防設備 保守協会 会長	渡 邊 二 郎 (75)	男	
藍綬	熊本県	現 熊本県女性防火防 災クラブ連合会 会長	三 浦 貴 子 (54)	女	
黄綬	長野県	現 飯山田製作所 代表取締役会長	笠 原 宏 文 (63)	男	
黄綬	東京都	現 モリタ宮田工業㈱ 顧問	葛 本 悟 美 (63)	男	
黄綬	大阪府	現 和泉防災㈱ 代表取締役社長	富 水 護 (78)	男	

平成26年度消防育英会定時理事会、 評議員会を開催

(公財)消防育英会

(公財)消防育英会は、2月17日(火)午後2時から定時理事会、3月5日(木)午後2時から評議員会を日本消防会館において開催しました。

○定時理事会(議長 原正之理事長)

秋本敏文会長のあいさつ後、議事が行われ、すべての議案が原案のとおり承認されました。

第1号議案 平成27年度消防育英会事業計画及び収支予算(案)について

第2号議案 消防育英会評議員会の招集について

第3号議案 東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金の取扱いについて

第4号議案 (公財)JKA補助事業の事業完了時の自己評価について

報告事項

- (1) 消防育英会奨学生の状況等について
- (2) 消防育英会支援自動販売機について

○評議員会(議長 石田直裕評議員)

秋本敏文会長のあいさつ後、議事が行われ、原案のとおり承認されました。

第1号議案 平成27年度事業計画及び収支予算(案)について

理事会決定事項の報告について

- (1) (公財)JKA補助事業の事業完了時の自己評価について
- (2) 東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金の取扱いについて

報告事項

- (1) 消防育英会奨学生の状況等について
- (2) 消防育英会支援自動販売機について



第29回中国消防視察について

(公財)日本消防協会

中国消防視察につきましては、昭和60年4月25日に「日中消防友好協定」を締結し、中国各地の消防機関を視察するとともに友好を深めており、例年、参加者には好評を博しております。

本年度で29回を迎える中国消防視察は、北京市のほか、今回は初めて内モンゴルを予定しております。

1 目的

中国各地の消防機関を訪問し、日中両国消防の友好交流を深めるとともに、中国消防体制・制度等についての見聞を広めることを目的とします。

2 参加者資格

各都道府県消防協会役員、消防団幹部・団員、消防本部役員、消防団事務担当者等で健康な方

3 訪問先消防機関等

- (1) シリンホト市、フフホト市、パウトゥウ市では消防調査を予定しております。
- (2) 各都市では中国の消防幹部との意見交換会等を予定しております。
- (3) 中国国内の行動に関しましては、中国消防協会の協力により、同協会の全面的な便宜供与を受けることとしております。

4 期間

平成27年8月17日(月)~8月24日(月)まで(7泊8日)

5 経費

総 経 費	233,490円 (燃油サーチャージ、諸税込)
-------	----------------------------

- (1) 中国滞在中の食費及び調査先の入場料等の諸経費は含まれています。
- (2) 調査期間中、一人部屋を希望される方の追加料金は63,480円が必要です。
- (3) 国際線ビジネスクラスを希望される方

の追加料金は97,000円が必要です。

中国国内線ビジネスクラスの追加料金は68,770円が必要です。

なお、経費につきましては、申込締切り後に当協会から請求いたします。

- (4) 海外旅行保険加入については担当旅行業者から案内いたします。

(例 69歳以下 1億円 保険料13,470円、70歳以上 5千万円 10,880円)



騎馬消防隊



フフホト市内最大のチベット仏教寺院一大召寺

6 申込方法と期限

参加申込書を各都道府県消防協会でお取りまとめいただき、平成27年6月17日（水）までに当協会へ提出して下さい。

なお、普段から健康のすぐれない方は、事前に医師とご相談の上、お申込み下さい。

また、参加者が無い場合でも文書（メールを含む）又は電話にてご回答下さい。

7 取扱旅行者（前後泊、日本国内航空券、海外旅行保険、成田集合案内等）

株式会社ベストワールド

TEL:03-3295-4111

FAX:03-3295-4118 森

8 中国国内視察について問合せ

公益財団法人 日本消防協会 国際部 担当 福地

TEL:03-3503-3054

FAX:03-3503-1480

E-mail:fukuchi@nissho.or.jp

9 日本国内宿泊等の斡旋

参加申込者には、申込締切り後に旅行者から次の斡旋について連絡がありますが、必要な方はお申込み下さい。

(1) 前後泊ホテル ホテル日航成田

(2) 宿泊料金シングルルーム1泊（朝食・税・サービス込） 8,700円



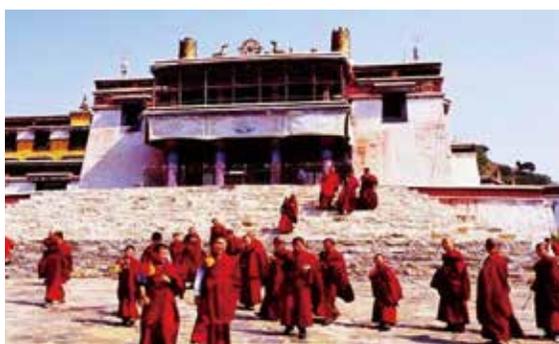
モンゴル帝国の創始者であるチンギス・ハンの陵墓



庫布砂漠東部にある砂丘－響沙湾



大召寺の近くにある五塔寺



小ポタラ宮といわれている五当召

第29回中国消防視察(内モンゴル自治区)日程(案)

	日 期	時 間	摘 要	宿 泊
1	8月17日 (月)	8:50 11:55 13:30 午後 17:30 18:20 20:10 21:10	CA422便にて 北京空港着 昼(軽)食 北京市内視察 空港付近にて夕食 北京南苑空港 MU3761便にて内モンゴル中東部のシリングル 草原上に位置する草原都市-シリンホト視察へ シリンホト空港着、ホテルへ	
2	8月18日 (火)	午前 午後	草原119(騎馬消防隊)視察 蒙元博物館 シリンホト市消防支隊(局)交流 夕食会	元和建国大酒店または 唐拉雅秀逸唐酒店 (5つ星)
3	8月19日 (水)	終日 夕方	克什克勝世界地質公園視察または大草原視察 夕食会	錫林浩特(シリンホト) 市 (3泊)
4	8月20日 (木)	10:00 11:05 12:30 14:00 16:30 18:30	GS7414便にてシリンホト出発 フフホト市白塔国際空港着 昼食 大昭寺視察 内モンゴ消防総隊視察 内モンゴ消防協会歓迎会	錦江国際大酒店 (5つ星) 呼和浩特(フフホト)市 (1泊)
5	8月21日 (金)	午前 午後 夕方	バス移動、フフホトからオールドスへ270キロ/3時 間 化学工場防火視察 モンゴル帝国の創始者であるチンギス・ハンの 陵墓を視察 夕食会	クラウンプラザ (5つ星) 鄂尔多斯(オールドス)市 (1泊)
6	8月22日 (土)	午前 午後 夕方	オールドス出発、バス移動54キロ/50分 庫布砂漠東部にある砂丘-響沙湾を視察 響沙湾出発、バス移動94キロ/2時間 清の乾隆14年に建てられた小ポタラ宮と賞賛さ れるチベット仏教の寺院-五当召を視察 夕食会	海徳酒店 (5つ星) 包頭(ポウトウ)市(1 泊)
7	8月23日 (日)	午前 12:20 13:45 18:30	包頭(ポウトウ)市女子消防隊視察 航空便CA1122便にて包頭(ポウトウ)市出発 北京空港着 北京市内視察 中国消防協会歓送会	北京飯店 (5つ星) 北京市 (1泊)
8	8月24日 (月)	午前 11:25 13:25 18:00 14:20 18:20	短い市内視察後、空港へ 北京空港着 CA167便にて 北京出発 成田空港着 CA6655便にて 北京出発 関西空港着	

※ 今後内容改善のため、中国国内の日程は変更する場合があります。

うちの

名物団員



熊本県

南阿蘇村消防団 第1分団 団員

本田 憲悟



本田団員は、当村の消防団員のなかでもトップクラスの体力と豊富な趣味を持っています。写真撮影、釣り、登山、ランニングなど、いつ寝ているのかと思うほど活動的な日々を送っています。

彼の趣味に共通して言えることは、自然をこよなく愛していること。己に厳しく自然に優しく。この優しさで地域住民の安心・安全を守るため、日々の消防団活動に積極的に務めてくれる頼もしい存在です。

石川県

小松市消防団 第2芦城分団 班長

徳海 晴哉



「歌舞伎のまち」小松市から、第2芦城分団班長 徳海晴哉氏を紹介します。小松市では毎年5月にお旅祭りが開催されます。お祭りでは曳山の八基曳揃えがあり、その光景は圧巻です!! 徳海さんが所属している分団はお旅祭りの地元ということもあり、お祭り時期になると仕事や分団活動のほか、曳山の役員も行い、三足の草鞋で頑張っています。お祭りでは右に出る者はいなく「お祭り男」の異名をとり、「お祭りを通して市民の皆さんに防火防災を働きかけていきます。」と張り切って取り組んでいます。

新潟県

魚沼市消防団 女性部 部長

星野 みゆき



女性部長として、女性部16名を纏める星野みゆきさんは、広報活動で大活躍。



平成23年に県内初となる防火・防災ヒーロー「ウオスマン」が誕生し、市内各地のイベントや成人式、学校等で5色のヒーローそれぞれの消火器、AEDなど担当アイテムにちなんだ内容の劇を通して防火・防災意識の向上、応急手当の必要性など、子供から大人まで分かりやすく伝える役割を担っています。

消防団の広場

沖縄県 「消防団活動の充実とこれからの共同による地域防災を目指して」

東部消防団 副団長

吉野 了



東部消防団は、沖縄本島の東海岸南部に位置し、人口は約92,000人、面積は約32km²、与那原町・南風原町・西原町の三分団、団員定数60名で構成されています。

消防団活動として、林野火災を想定し、急こう配の現場での中継用小型ポンプの搬入による頂上からの放水訓練を実施しました。また、春の火災予防運動では防火アピール駅伝を住民への啓蒙活動として、消防職員とともに各町を分担して走っており、町役場前では防火活動並びに救命活動の寸劇

なども交え、ユーモアあふれるアピールも行っております。さらに、女性消防団員の任用にも力を入れており、平成27年度から3名増え、女性団員7名の活躍が期待されるところであります。

与那原町では地域自主防災組織も立ち上がり、地域の防災意識も高くなっています。東部消防団員も地域防災の一端を担う者としてより一層努力し、住民とともに安心安全なまちづくりのために力を注いでまいります。



平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

6月の日本消防協会関係行事

6月11日(木)午後2時～	消防育英会選考委員会
6月18日(木)午後2時～	消防育英会評議員会
6月19日(金)午前	日本消防協会役員会議(評議員会、理事会、定時評議員会) 全日本消防人共済会役員会議(総代会、理事会)

編集後記

ついこの前まで桜がキレイだなあと感じていましたが、もう新緑の季節。この時期の自然は勢いがある、日ごとに色彩が変化していくのが楽しめます。平成27年の研修生も東京に着任して1ヶ月が過ぎ、仕事にも少しずつ慣れ、新緑の如く活動的になってきたように思われます。

さて、この時期、全国各地では様々な消防訓練が行われており、消防団の皆様には地域住民の生命、身体、財産を災害等から守るため、昼夜を問わず励まれておられますことに敬意を表しますとともに、生命、身体、財産を災害等から守っていただくことで、私は、その先にある「未来と幸せ」も守っていただいているものと改めて感謝申し上げます。

感謝と言えば、5月には母の日があります。私は毎年贈物をして感謝の気持ちをあらわしていますが、大切な人を笑顔にする、そんな贈物を感謝の気持ちとともに選んでみてはいかがでしょうか。

これから暑さが増してきますが、体調管理には注意して乗り切ってまいりましょう。

(M.M)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第五号
平成二十七年五月五日印刷
平成二十七年五月十日発行

編集人 生嶋文昭

発行所 (公財)日本消防協会
東京都港区虎ノ門二丁目十九番十六
電話 〇三(3503)一四八二(代)

印刷所
千葉県稲毛区山王町一〇二一五
株式会社 白樺写真工藝
電話 〇四三(423)二〇一(代)

消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員
消防職員
ならどなたでも
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の機損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

消防団
消防本部

毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円(ゆうちょ
銀行は五千円)から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金(6種類)又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金(脱退一時金)
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494

平日 9:00~17:00